



第43回 市政e-モニターアンケート
「市役所本庁舎等整備の取組について」

【テーマ】市役所本庁舎等整備の取組について

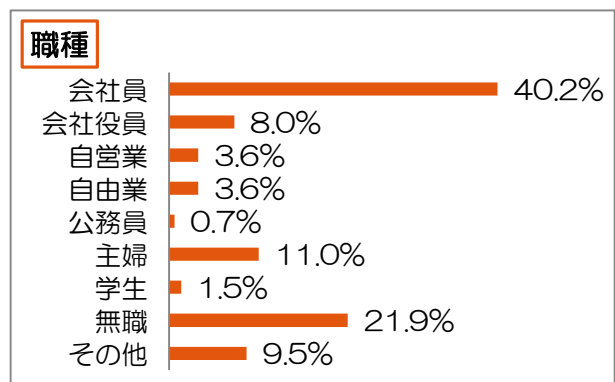
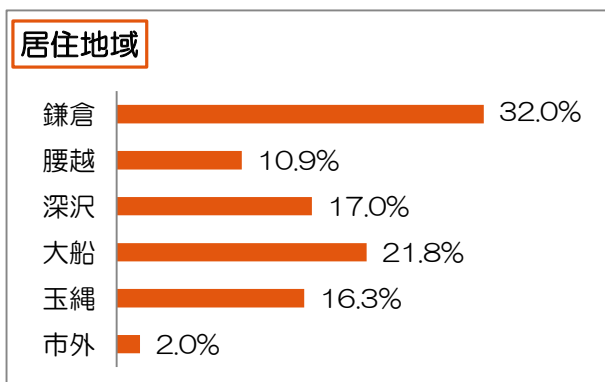
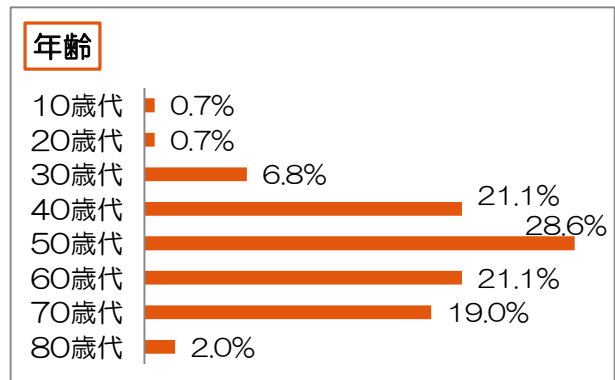
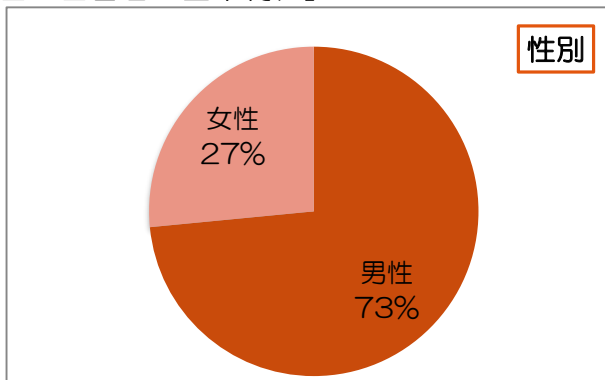
【目的】 現在、鎌倉市では「持続可能な都市『鎌倉』」を目指したまちづくりを進める中で、市役所本庁舎について、災害時には前線基地となる市役所自体の防災力の向上や、将来の社会変化に柔軟に対応できる仕組みを備えたスマートでコンパクトな市役所などを目指し、移転先を深沢地域整備事業用地（行政施設用地）として整備に取り組んでいるところです。

これに伴い、現在地（現在の市役所本庁舎のある場所）については、市役所本庁舎であるよりも、もっと市民の皆さまにとって快適で身近になる場所、また、人と情報がつながる魅力的な場所として再整備していきたいと考えています。窓口機能はしっかりと残しつつ、中央図書館や生涯学習センター等の公共施設については、再編や民間機能の導入によりコストを抑えながら、賑わいや憩いを創出していきます。

鎌倉市は「持続可能な都市『鎌倉』」を、市民の皆さまとともに作りたいと考えています。市役所本庁舎の整備について、今後の参考とするため、皆さまのご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

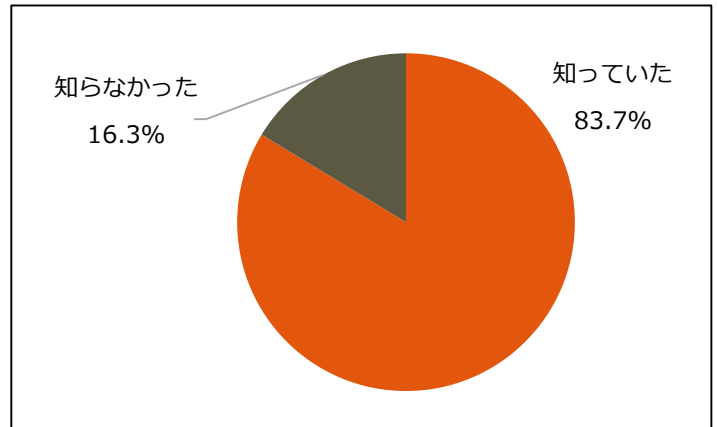
- ◆ アンケート送信日 : 平成30年8月6日（月曜日）
- ◆ 実施期間 : 平成30年8月6日（月曜日）～8月20日（月曜日）
- ◆ 送信者数 : 447 名（着信者数 427 名）
- ◆ 回答者数 : 147 名
- ◆ 回答率(対着信者数) : 34.4%（前回より +1.9ポイント）

【今回の回答者の基本属性】



【質問1】(必須) 市役所本庁舎の整備について、移転して整備することを決定しました。このことについて、ご存知でしょうか。(平成29年(2017年)3月)に「鎌倉市本庁舎整備方針」を策定し決定しています。)

1. 知っていた	123 名
2. 知らなかった	24 名
合計	147 名



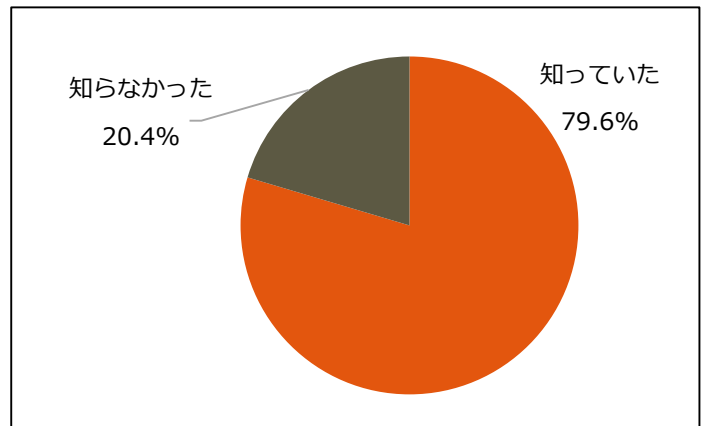
【公的不動産活用課より】

平成 29 年 3 月に「本庁舎整備方針」を策定して以降、公共施設再編や本庁舎整備の取組みについて周知・啓発を図ってまいりましたが、本庁舎を「移転して整備する」ことについて、約 8 割の方がご存知であることがわかりました。

引き続き、周知・啓発に努めてまいります。

【質問2】(必須) 市役所本庁舎の整備について、移転先を深沢地域整備事業用地(行政施設用地)とすることに決定しました。このことについて、ご存知でしょうか。(平成30年(2018年)3月)に「鎌倉市公的不動産利活用推進方針」を策定し決定しています。)

1. 知っていた	117 名
2. 知らなかった	30 名
合計	147 名



【公的不動産活用課より】

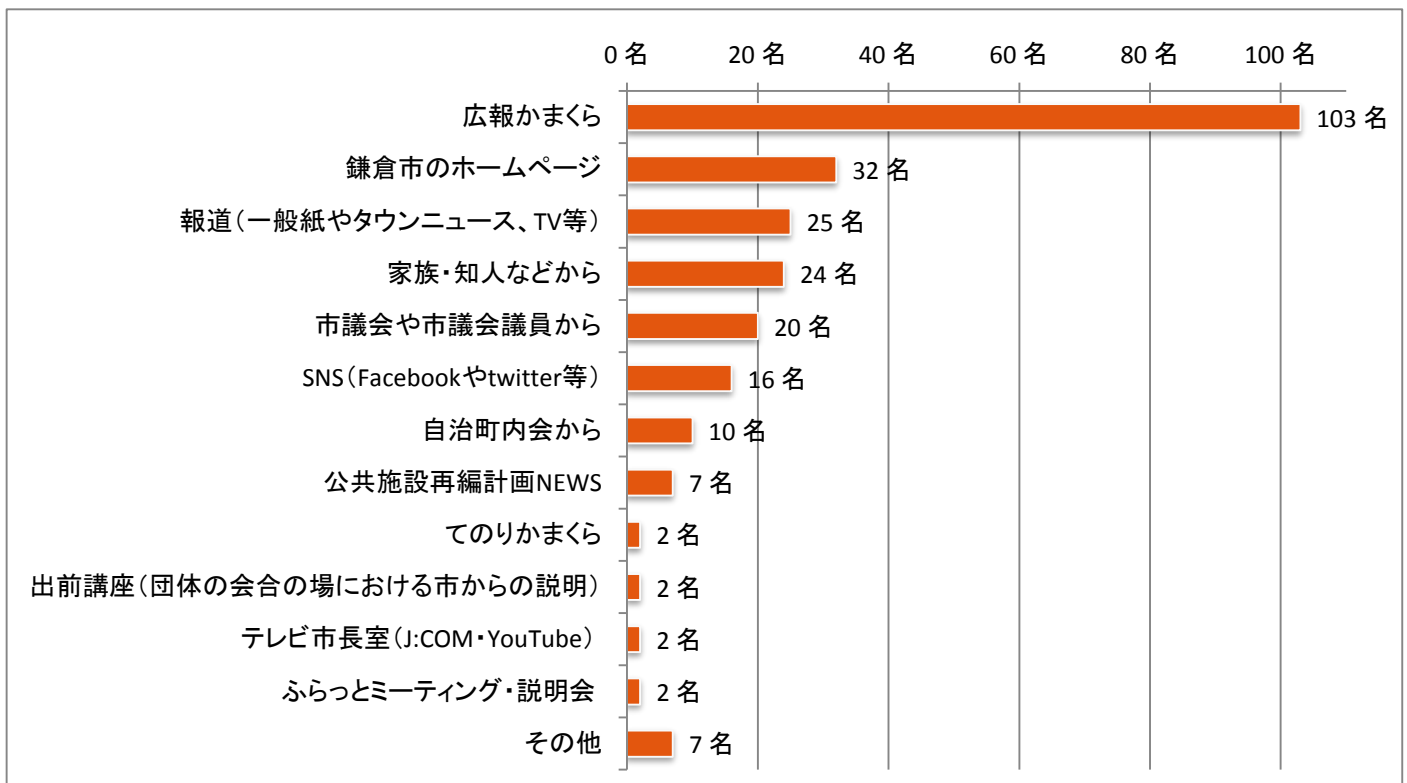
本庁舎の移転先を「深沢地域整備事業用地(行政施設用地)とする」ことについて、約 8 割の方がご存知であることがわかりました。

引き続き、周知・啓発に努めてまいります。

【質問3】 質問1、質問2で「1 知っていた」とお答えいただいた方に伺います。市役所本庁舎の整備の検討や取組状況について、どのような機会・刊行物等でお知りになりましたか。(お知りになった機会・刊行物等の選択肢を 3 つ)

1. 広報かまくら	103 名
2. てのりかまくら	2 名
3. 鎌倉市のホームページ	32 名
4. 公共施設再編計画 NEWS	7 名
5. SNS (Facebook や twitter 等)	16 名
6. 出前講座 (団体の会合の場における市からの説明)	2 名
7. テレビ市長室 (J:COM・YouTube)	2 名
8. ふらっとミーティング・説明会	2 名
9. 報道 (一般紙やタウンニュース、TV 等)	25 名
10. 家族・知人などから	24 名
11. 自治町内会から	10 名
12. 市議会や市議会議員から	20 名
13. その他	7 名





【公的不動産活用課より】

約7割の方が「広報かまくら」でお知りになり、次いで、約2割の方が「市ホームページ」でお知りになったということがわかりました。

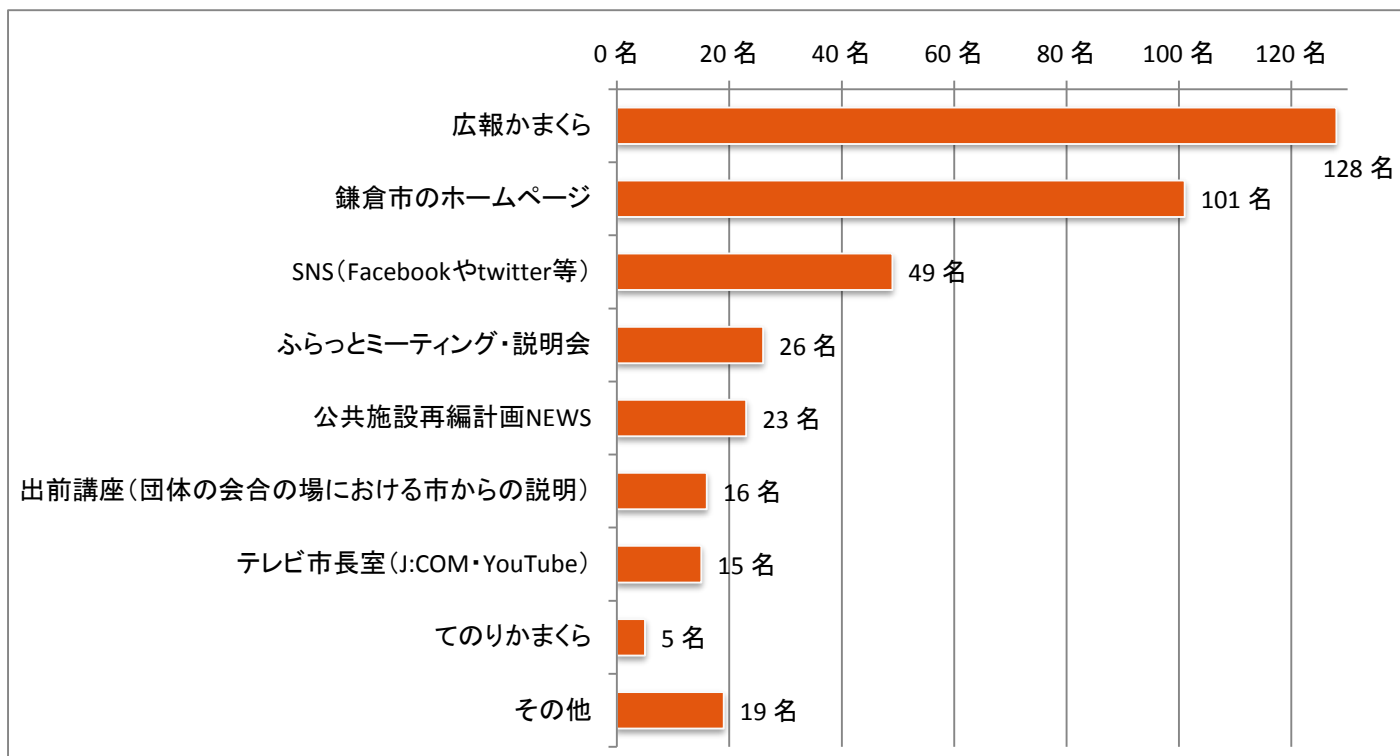
【その他（7名）】…6名の方から次のご意見をいただきました。

- Eモニターアンケート。議会報告会。
- 深沢まちづくり関係。
- 市役所を移転して整備することは本当に決定したのでしょうか？このようなあいまいで誘導的な質問への回答を鎌倉市が恣意的に使用することはないのでしょうか？
- 市民の意見をどのように把握したのでしょうか。知らない間に決められているような気がします。
- 広報かまくらに掲載されたのは知っているが、それまで深沢に移転することが決まったとは知らなかったのでいつ決まったのかと驚いた。
- 深沢への移転決定には疑義が報道されています。決定と言われる事には色々問題を含んでいると思われます。アンケートは毎回協力していますが今回だけは見送らせて頂きますのでご了解ください。

【質問4】 (必須) 今後、市役所本庁舎の整備の検討や取組状況を周知するために、鎌倉市が積極的に利用すべきであると考えられる効果的な機会・刊行物等についてお聞かせください。(活用すべきとお考えの選択肢を3つ)

1. 広報かまくら	128名
2. てのりかまくら	5名
3. 鎌倉市のホームページ	101名
4. 公共施設再編計画NEWS	23名
5. SNS (Facebookやtwitter等)	49名
6. 出前講座 (団体の会合の場における市からの説明)	16名
7. テレビ市長室 (J:COM・YouTube)	15名
8. ふらっとミーティング・説明会	26名
9. その他 (自由記述)	19名





【公的不動産活用課より】

約9割の方が「広報かまくらを積極的に周知に利用すべき」とのご意見であることがわかりました。これに次いで、「市ホームページ」とのご意見が約7割、「SNS（Facebookやtwitter等）」のご意見が約3割あるなど、様々なお考えを聴くことができました。多様な手法で情報発信に努めてまいります。

【その他（19名）】…19名の方から次のご意見をいただきました。

- 市役所本庁舎の整備の検討や取組状況に特化したチラシを配布する。関心が高いテーマなので、特化した方が読むと思います。
- 各地区の自治体の印刷物の中に。
- 回覧板、小中学校のお便り、郵便局、銀行、スーパー（コンビニ）。
- 各自治会等との意見交換議事録 etc。
- 市民全員を対象としたアンケートなど。
- もっとミーティングなど市民との話し合いをすべき。
- 市役所移転の背景、理由を市民が納得いくまで直接説明会を繰り返し、幾度となく実施する事。
- 市長が出席する本庁舎移転をテーマにした説明会（複数回）。
- 興味のある市民が出席しやすい説明会などを複数回行う。
- 駅、ショッピングセンター、スーパー、バス内、江ノ電車内など多くの市民が立ち寄る場所でのポスター掲示。
- 鎌倉テレビのニュース番組。
- テレビ神奈川やNHKなどテレビ放送。
- 口コミ。
- 市議会での誠意ある説明を求めます。それによって市民も納得できるのではないのでしょうか？
- 全くそのような案内がありませんでした。絶対反対です。
- 議会で決まっていなかった物を決まると周知する事に理解できません。
- まだ正式に決まった事ではないと思いますが？
- 取り組み状況を周知するも何も、全く知らなかった。完全に密室で決定された事項なので、このアンケートのような市の既成事実としての進行為が驚きです。
- 「ふらっとミーティング」というのは聞いた事がない。

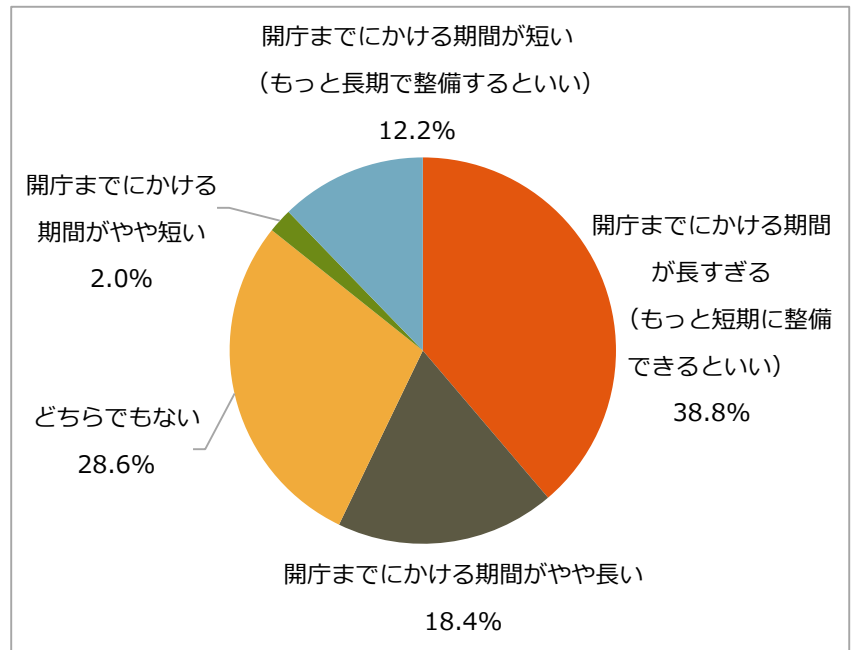
【質問 5】（必須）市役所本庁舎の整備の方策などについて、災害発生が懸念される中、スピード感を意識しながらも時間をかけて検討を進め、一昨年度までに整備方針を検討（2年かけて移転を決定）し、昨年度は移転先を検討（更に1年かけて移転先を深沢地域整備事業用地に決定）してきましたが、新たな本庁舎の開庁までに今年度からおよそ7年間（基本構想※策定に約1年、基本計画※策定に約1年、工事のための設計に約2年、工事に約3年）かけるスケジュール（期間）のイメージについてはいかがですか。

【用語解説】

※**基本構想**：新たな本庁舎に関する基本的な考え方を整理したもの（基本理念、基本的機能など）

※**基本計画**：基本構想に基づき、より具体的で設計の前提となる情報を整理したもの（規模、機能、概算事業費、建設のスケジュールなど）

1. 開庁までにかける期間が長すぎる (もっと短期に整備できるといい)	57 名
2. 開庁までにかける期間がやや長い	27 名
3. どちらでもない	42 名
4. 開庁までにかける期間がやや短い	3 名
5. 開庁までにかける期間が短い (もっと長期で整備するといいい)	18 名
合計	147 名



【公的不動産活用課より】

「開庁までにかける期間が長すぎる (もっと短期に整備できるといい)」、「やや長い」とのご意見が約6割であることがわかりました。今後も、現在のスケジュールをベースに、丁寧かつスピード感を持って検討を進めてまいります。

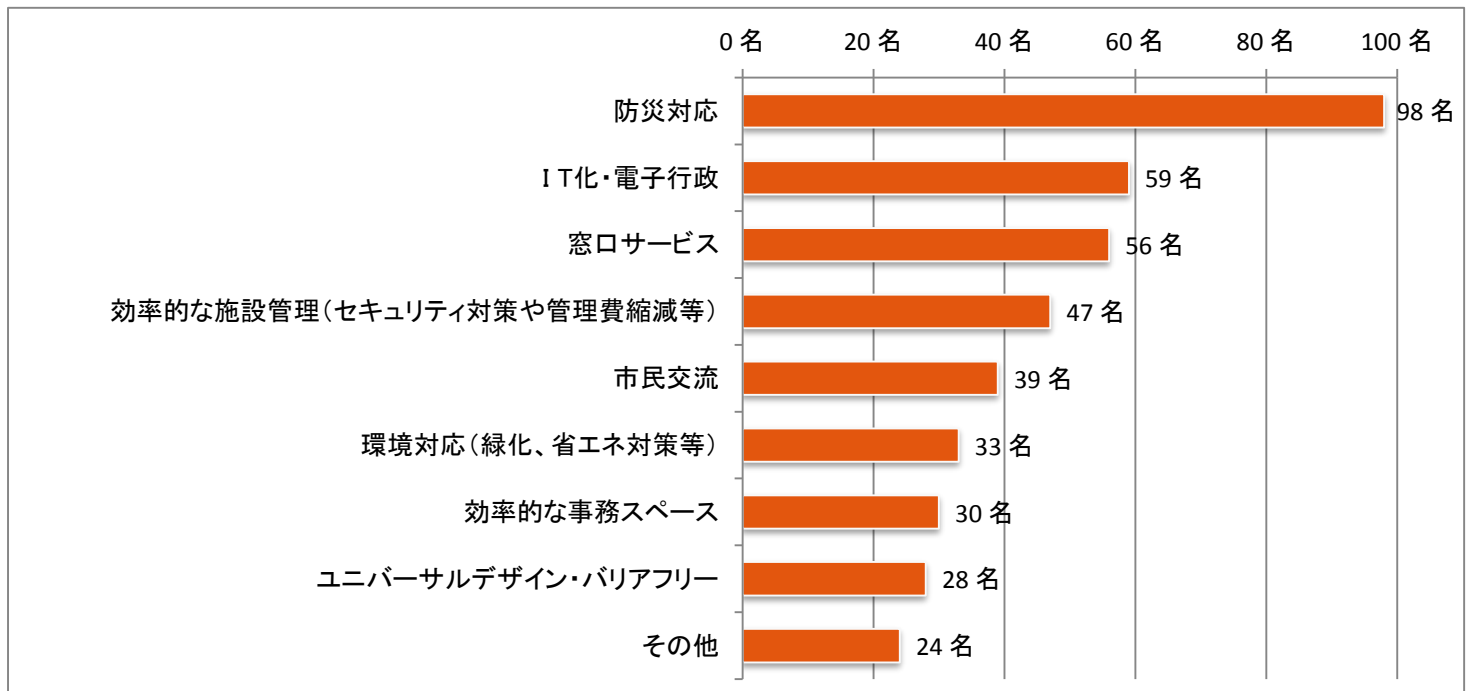
【質問 6】（必須）「持続可能な都市『鎌倉』」を皆さまとともに作りたいと考えています。今年度は市役所本庁舎の基本構想※の検討を行っていますが、重視すべきとお考えの分野はありますか。（重視すべきとお考えの選択肢を3つ）

【用語解説】

※**基本構想**：新たな本庁舎に関する基本的な考え方を整理したもの（基本理念、基本的機能など）

1. 市民交流	39 名
2. ユニバーサルデザイン・バリアフリー	28 名
3. 防災対応	98 名
4. 環境対応（緑化、省エネ対策等）	33 名
5. 窓口サービス	56 名
6. 効率的な事務スペース	30 名
7. IT化・電子行政	59 名
8. 効率的な施設管理（セキュリティ対策や管理費縮減等）	47 名
9. その他	24 名





【公的不動産活用課より】

約7割の方が「防災対応」とのご意見であることがわかりました。これに次いで、「IT化・電子行政」、「窓口サービス」とのご意見がそれぞれ約4割の方からあるなど、様々なお考えを聞くことができました。今後の検討の参考とさせていただきます。

【その他（24名）】…24名の方から次のご意見をいただきました。

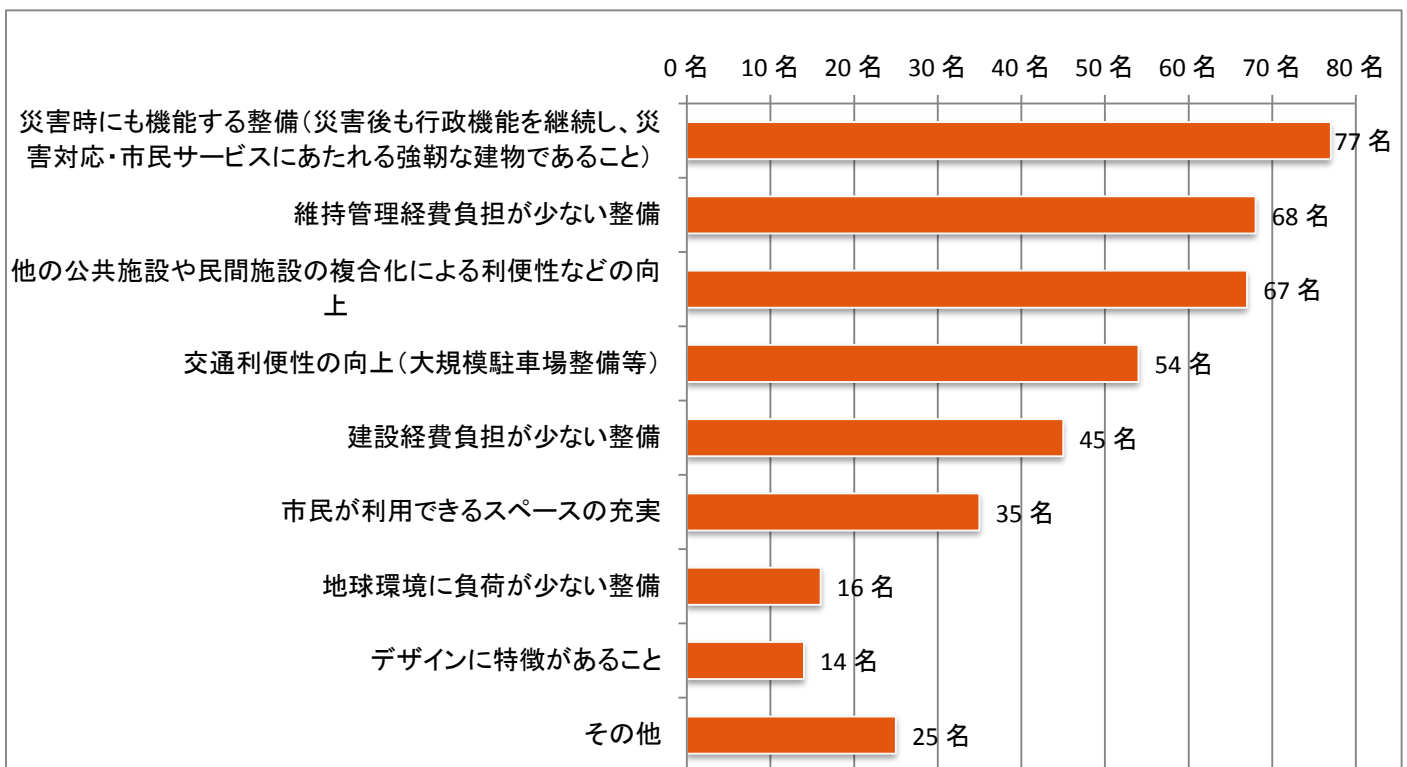
- 本庁舎に窓口業務を集中するのではなく、むしろ支所を増やすべき。支所機能に包括支援センターや生活保護窓口などを置き、支所に行けばワンストップですべての窓口業務に対応してもらえるようになればいい。
- コンビニですべての証明書類を取ることができるようになったと言われていたが、難しい手続きごとなどや高齢者や生活弱者にはとても対応できない。生活密着型の行政機能を追求すべきだと思う。
- より緻密な行政サービスができるよう、鎌倉市の西と東でダブル本庁舎を意識した行政体制。実質的な行政分権により、それぞれの地域特性に応じたサービスが展開できる。
- 効率的な機能（事務や交流など）のスペース配分。
- 子育て支援、公園の整備。
- 市民に対する真摯な対応。
- 市民と行政との対話。
- 市民「と行政の」交流（意思疎通）。
- 海外旅行者への観光対策。
- 国際交流。
- 1～8すべて。
- 避難場所としての機能。例えば、海岸地域の避難住民の一次居住地としての能力や設備。
- 狭くなってしまった市民のためのスペースを、空き家などを活用し、もっと身近にコンパクトにたくさん作ってほしい。そのために、市の事務スペースは分散させて、小さくしてほしい。
- 環境部、まちづくり景観部など、100年後でも残したい本庁舎づくりになるために、「鎌倉らしい」を具現化してほしい。
- 箱物よりも、縦割り組織の廃止。
- 渋滞対策。固定費の削減。
- 深沢を藤沢駅は大船駅のような近代的な風景にすることはのちに取り戻せない後悔と、分断を生むと思う。
- 深沢が「鎌倉」であることを今ここできちんと温故知新で進めてほしい。
- 第3の拠点とすると、大船、鎌倉、深沢ではなく、北鎌倉、深沢、鎌倉と歴史の道を繋げることが防災、観光の観点から持続可能な「鎌倉」になる。
- もし、日本遺産としての「モザイク都市鎌倉」という中から「鎌倉時代」を除外するのであれば、いくらでも近代化してしまえばよい。
- 「持続可能な都市」と「市役所移転」が繋がらない。繋がるのであれば、その背景の説明・説得なしには返答しかねる。「3つ」とのことなので、その他以外は便宜的に選択した。
- 移転計画の撤回。
- 本庁舎の移転反対。（3件）
- 市民への十分な説明（決定理由、プロセス）。

- 災害時に前線基地とするなら、鎌倉警察か消防署に市の対策本部を設置するべきと思います。IT や AI の時代に大きな庁舎はいりません。
- 行政事務事業の電子化が進む中、市役所本庁舎の環境や事務スペースなどはどうでもよいと感じる。市民が窓口まで足を運ばなくても各種手続きができる方法を検討し、市民が必要とする機能のみ駅前に残し、庁舎は業務上必要とする簡素な事務スペースであればよいのではないかと。今はそういった検討がされているのかわかる資料がどこに提供されているのかわからない。
- 市民との意識交流、お互い齟齬が無いように。
- まだ正式に決まった事ではないと思いますが？
- 移転をしないということはできないのでしょうか。どのように移転を決めたのか教えていただきたいです。市民の声は生かされているのでしょうか。

【質問 7】（必須）移転先である深沢地域整備事業用地（行政施設用地）での市役所本庁舎の整備等や、現在地（現在の市役所本庁舎のある場所）の利活用について、期待することは何ですか。（選択肢を各々3つまで）

【質問 7-1】 移転先：施設整備として期待すること

1. 市民が利用できるスペースの充実	35 名
2. 災害時にも機能する整備 （災害後も行政機能を継続し、災害対応・市民サービスにあたる強靱な建物であること）	77 名
3. 建設経費負担が少ない整備	45 名
4. 維持管理経費負担が少ない整備	68 名
5. 地球環境に負荷が少ない整備	16 名
6. デザインに特徴があること	14 名
7. 他の公共施設や民間施設の複合化による利便性などの向上	67 名
8. 交通利便性の向上（大規模駐車場整備等）	54 名
9. その他	25 名



【公的不動産活用課より】

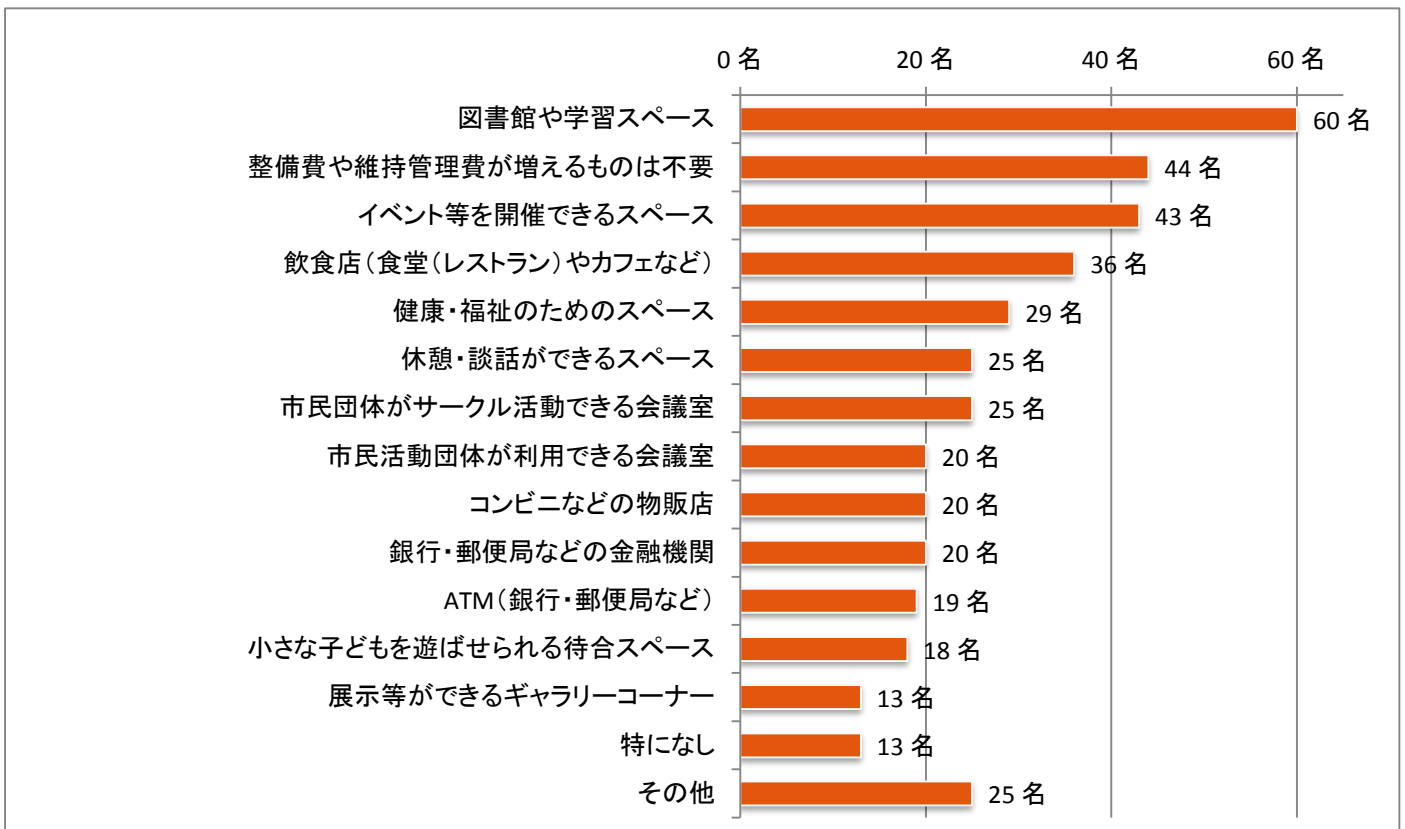
「災害時にも機能する整備（災害後も行政機能を継続し、災害対応・市民サービスにあたる強靱な建物であること）」、「維持管理経費負担が少ない整備」、「他の公共施設や民間施設の複合化による利便性などの向上」とのご意見がそれぞれ約5割であることがわかりました。これに次いで、「交通利便性の向上（大規模駐車場の整備等）」のご意見が約4割の方からあるなど、様々なお考えを聴くことができました。今後の検討の参考とさせていただきます。

【その他（25名）】…25名の方から次のご意見をいただきました。

- 既存の市役所敷地を市民のこころのよりどころとなるように積極的に活用すること。
- 観光都市かまくらを意識した鎌倉の広報施設、外国人を含む観光客がまずここに来て情報を得ることができる施設。
- 施設整備として期待することに交通利便性の向上とあるが、『大規模駐車場整備』というのは今後の超高齢社会を踏まえると適切でないと感じている。マイカー利用を前提とせず、深沢地区と鎌倉地区を結ぶ高度化バスの導入等、公共交通の抜本改善に注力すること。
- 市民サービスとごみ焼却炉を融和させた環境の建設。
- 広場・カフェを作る。
- 現在地は市民交流の場とし将来的には図書館の移転先とする。
- 収益がとれるようイベントスペースとしての貸し出しができるようにする。
- 無料 wifi。
- モノレールの増便。8：30-9：30は三菱電機社員の出勤時間と重なり、今でも乗客が大船駅で溢れており、一般客に不便が生じている。
- 新庁舎へのアクセス、特に、市内住宅地からのバス路線の見直しと整備が不可欠です。
- 鎌倉駅からの無料送迎ミニバスの運行。
- 全く期待しない。何処の市にこんな中心部でないところに市役所を移転するところがありますか。とんでもないことです。駐車場つくって高齢化が進んでいる鎌倉で車で来訪を考えることがおかしい。
- 移転には反対です。深沢地区は災害時に機能する施設にしたらよいと思います。
- 生活が多様化している現代において、お役所業務の時間が市民のニーズに答えられていない。たとえば、住民票の取得などは、一部のコンビニでは出来るかもですが、何処で対応しているかわからない。大船ルミネでも対応してくれているものの、出来ない事の方が多いし、ほとんどの市民は知らない。それに、ルミネの駐車料金もとられる。ちゃんと市民がわかる、理解出来るように広報活動していただきたい！その為の新市役所であるなら歓迎です！
- 市役所は御成にあるべき。深沢は不便。
- 現状では深沢移転については市民の間できちんとしたコンセンサスが得られているとは思えない。
- 今はむしろ本庁舎の移転よりも避難場所となる拠点整備（各小中学校）の対応の方が先決だろう。津波対策を市役所移転の理由の一つとして挙げているが、深沢地区は現在の市役所と標高が同じであり、大きな河川（柏尾川）の川沿いにある。柏尾川は上流を横浜市、下流を藤沢市が管理しており、鎌倉市単独でコントロールができない難しい河川である。
- 市内には現在の市役所よりも低位置にある小中学校が何校もあるが、これらの施設は老朽化が進み、とても避難場所として耐えられるものではない。
- 本庁舎の移転寄りもそちらを優先すべきである。
- 移転先を選定するために市民と行政との十分な対話があったかどうか不明瞭、説明不足と感じる。移転先でのサービス云々以前の問題があることを認識すべき。
- 本庁舎の移転反対。（3件）
- 移転すること自体が不満。不便しか感じない。
- 移転等の再検討が必要と思われます。
- まだ正式に決まった事ではないと思いますが？
- ですから、深沢ありきの既成事実での進行ではなく、全てゼロから考え直してほしい。市民不在の市役所移転問題が不思議で仕方ない。勝手にどんどん決まっているのが怖い。
- 「移転」を前提とした質問には返答しかねる。他公的施設関連の資料や建設費内容などの説明がないので、返答もできない。「3つ」とのことなので、その他以外は便宜的に選択した。
- 利便性もあるので、現状の機関として維持して欲しい。
- 100年後の鎌倉を住民がイメージできないままでは、鎌倉はどこにでもある街の風景になる。万が一、大災害などで東京の首都機能移転が起きた時、持続可能な街になれるかどうかは大切だとおもう。
- 深沢への移転には、大変疑問と不信感をもっています。なんとしても深沢を使いたいのなら、現在の市役所の今後の利用計画を深沢でなさっては？

【質問 7-2】 移転先：具体的な併設機能で期待するもの

1. 休憩・談話ができるスペース	25 名
2. 展示等ができるギャラリーコーナー	13 名
3. イベント等を開催できるスペース	43 名
4. 市民団体がサークル活動できる会議室	25 名
5. 市民活動団体が利用できる会議室	20 名
6. 小さな子どもを遊ばせられる待合スペース	18 名
7. 図書館や学習スペース	60 名
8. 健康・福祉のためのスペース	29 名
9. コンビニなどの物販店	20 名
10. 銀行・郵便局などの金融機関	20 名
11. ATM（銀行・郵便局など）	19 名
12. 飲食店（食堂（レストラン）やカフェなど）	36 名
13. 特になし	13 名
14. 整備費や維持管理費が増えるものは不要	44 名
15. その他	25 名



【公的不動産活用課より】

約 4 割の方が「図書館や学習スペース」とのご意見であることがわかりました。これに次いで、「整備費や維持管理費が増えるものは不要」、「イベント等を開催できるスペース」とのご意見がそれぞれ約 3 割の方からあるなど、様々なお考えを聞くことができました。今後の検討の参考とさせていただきます。

【その他（25名）】…25名の方から次のご意見をいただきました。

- 市民の相談等の窓口。常時、相談員がいること。
- 在宅勤務時の仕事場所とできるスペース。
- 起業しようとするスタートアップ志向の個人・団体或はすでにスタートしているベンチャーをサポートする施設（低料金での Office スペースの提供等）。
- 新規事業をスタートさせたい全年代の市民をサポートする施設及び活動拠点となる創造的な賃貸オフィス群。
- 健康増進のためのスポーツ施設。
- 大規模な講演会ができるような、シアター。
- 市民農園とふれあい動物園の併設。
- 「市民団体がサークル活動できる会議室」と「市民活動団体が利用できる会議室」の違いがわからない（又は併せた機能を）。
- 本筋を見失わず、ちゃんと市民にサービスを提供出来る事を第一として考えていただきたい。災害を考慮したうえで、備蓄や配給などに対応できる、コンビニやレストランなら可。そのさいの避難スペースを考え確保した会議場なら可。
- 鎌倉市役所の機能の何が移転し、どの程度のスペースと経費がさけるのかわからないため、回答のしようがない。少ない予算で欲張らないほうがよいと思う。
- 費用をかけることは不可。
- 本庁舎移転に反対。（2件）
- そもそも、不便で、藤沢側に偏った深沢への移転に反対であり、支所に大幅な機能移転をする、前提のない電子申請の拡大等行かないでよい市役所にすべき。
- これまでも書いたが、本庁舎の移転ではなく、支所機能の充実を優先すべき。本庁舎にはむしろ本庁舎でしかできない業務に特化することで空きスペースを作り、スペース効率を高めれば良い。市役所移転の前に、行政機能全般の見直しをすべきだと思う。
- まだ正式に決まった事ではないと思いますが？
- 本当に深沢でよいのか、再検討してほしい。
- 移転先の再検討が必要と思われます。
- 移転に反対。現在地で簡易耐震施設を建築する。
- 市民の憩いの場や交流スペースの集約施設を深沢に作ればよい。市役所は今のまま現在地で良い。
- 市役所機能は 現在の庁舎の位置で。深沢では、学習センターなどにすることが 最良です。
- 期待できないものにコメントできません。
- 「移転」を前提とした質問には返答しかねる。市民の意見を取り入れた上での決定とは思えない。
- 移転先を選定するために市民と行政との十分な対話があったかどうか不明瞭、説明不足と感じる。移転先でのサービス云々以前の問題があることを認識すべき。
- 移転には反対です。深沢地区は災害時に機能する施設にしたらよいと思います。

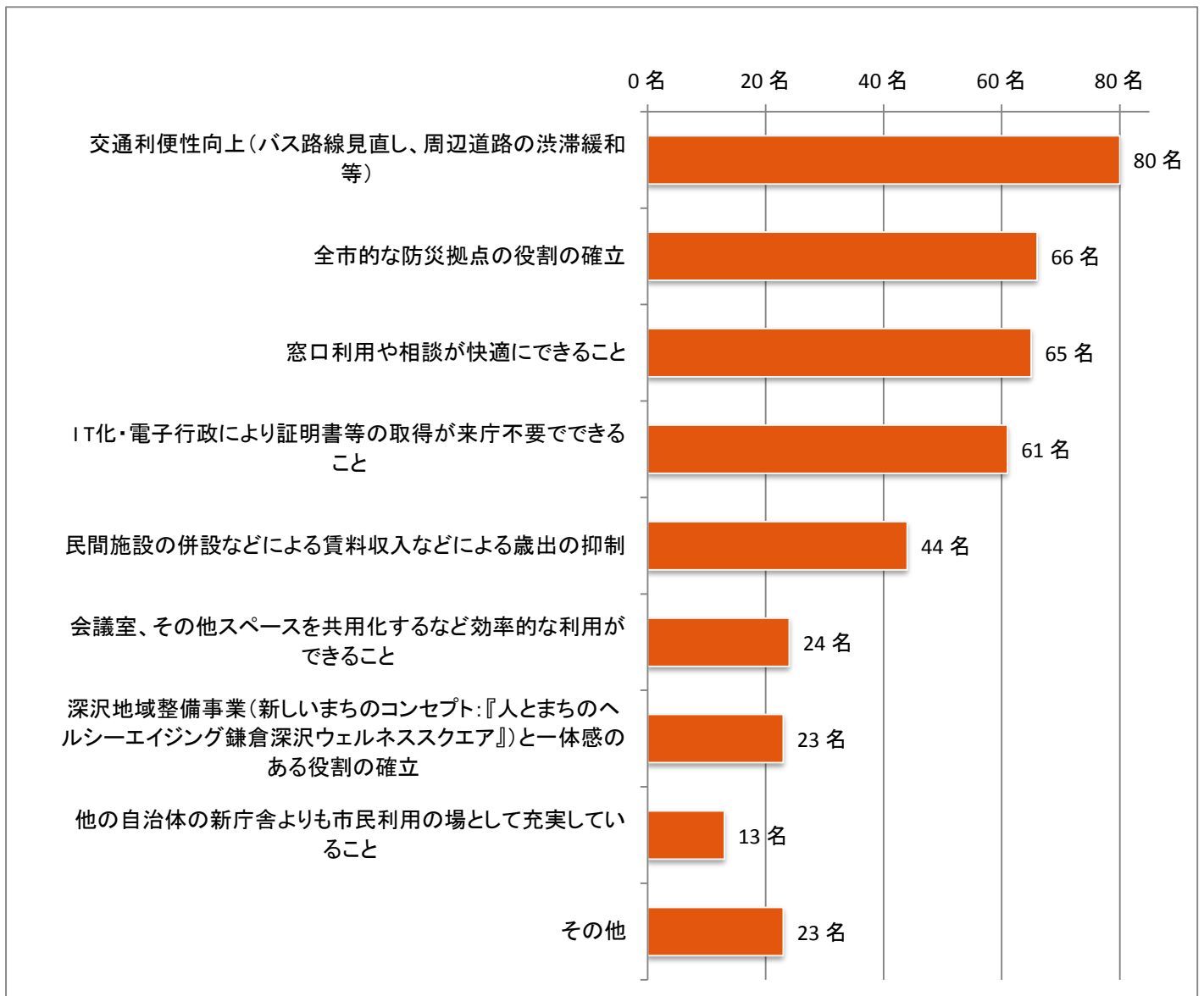
【質問 7-3】 移転先：施設整備以外で期待すること

【用語解説】

※ヘルシーエイジング：人は年齢を重ねることをマイナスと捉えるのではなく、その時代、時代に健康的でいきいきとしたライフスタイルを築くことでプラスにし、まちも経年劣化するのではなく、時の経過と共に文化や深みや味わいが育つこと

※ウェルネス：健康な心身を維持・発展させる生活行動

1. 窓口利用や相談が快適にできること	65 名
2. 全市的な防災拠点の役割の確立	66 名
3. IT 化・電子行政により証明書等の取得が来庁不要でできること	61 名
4. 会議室、その他スペースを共用化するなど効率的な利用ができること	24 名
5. 他の自治体の新庁舎よりも市民利用の場として充実していること	13 名
6. 深沢地域整備事業（新しいまちのコンセプト：『人とまちのヘルシーエイジング鎌倉深沢ウェルネスクエア』）と一体感のある役割の確立	23 名
7. 交通利便性向上（バス路線見直し、周辺道路の渋滞緩和等）	80 名
8. 民間施設の併設などによる賃料収入などによる歳出の抑制	44 名
9. その他	23 名



【公的不動産活用課より】

約5割の方が「交通利便性の向上（バス路線見直し、周辺道路の渋滞緩和等）」とのご意見であることがわかりました。これに次いで、「全市的な防災拠点の役割の確立」、「窓口利用や相談が快適にできること」とのご意見がそれぞれ約4割の方からあるなど、様々なお考えを聞くことができました。今後の検討の参考とさせていただきます。

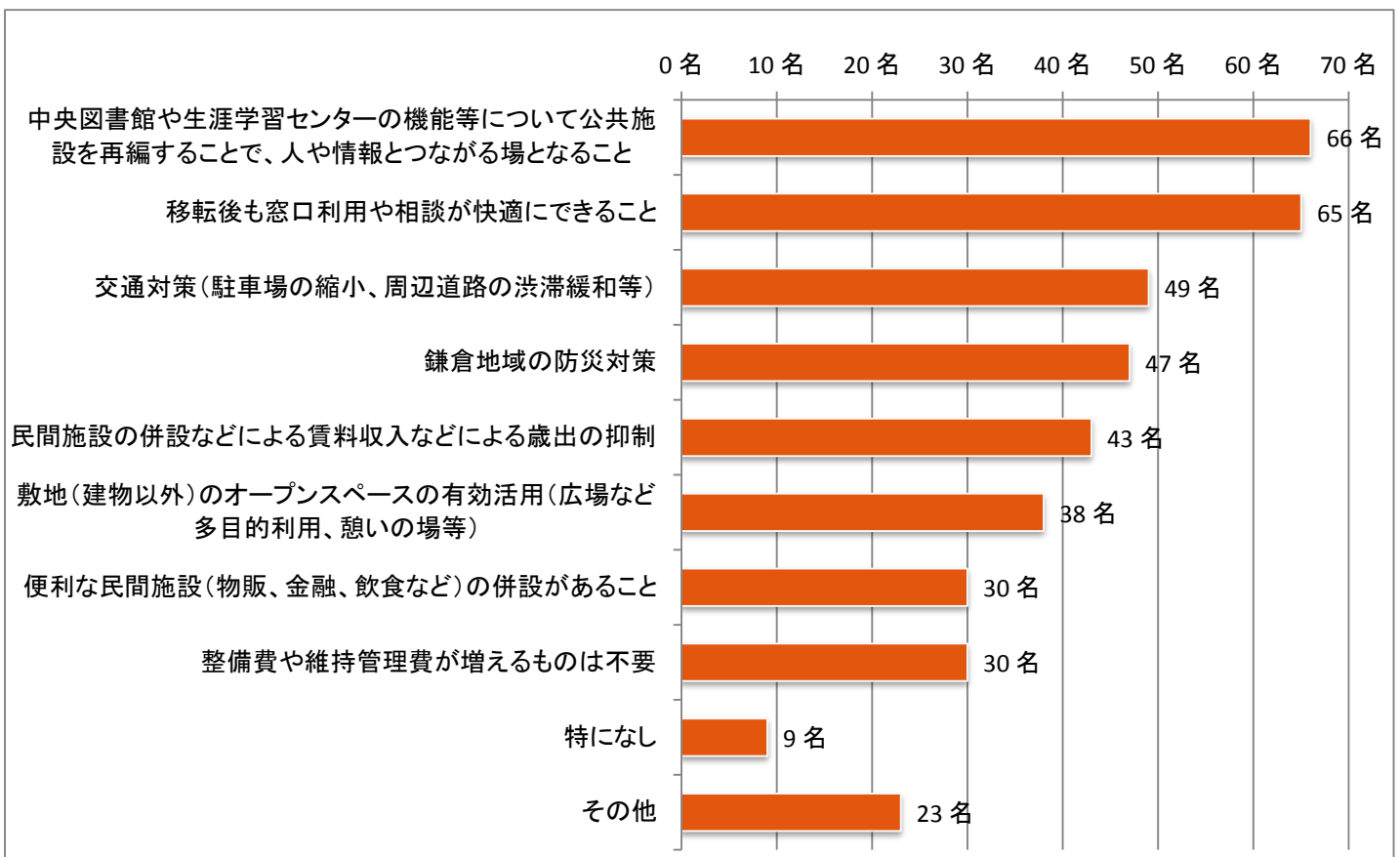
【その他（23名）】…23名の方から次のご意見をいただきました。

- 市民の相談等の窓口。常時、相談員がいること。
- 図書館の充実。
- 新焼却炉との併設。
- 市民にとってなにしろ不便にならにようにすべき。
- モノレールの増便8：30-9：30は三菱電機社員の出勤時間と重なり、今でも乗客が大船駅で溢れており、一般客に不便が生じている。
- 来庁せずに各種手続きができるようになるのはありがたいが、そうすると現在の市役所の2.5倍の面積は必要ないのではないのでしょうか？
- 深沢には何の魅力も、感じない。不便な場所で行きたくもない。
- 深沢には期待しない。
- 現在地に市役所機能を残すべきだと考えるので、その他のことは何も期待していない。
- 期待していない。(2件)
- 本庁舎の移転反対。(3件)
- まだ正式に決まった事ではないと思いますが？
- 市役所機能は 現在地。学習センター等は 深沢。
- 災害時に前線基地とするなら、鎌倉警察か消防署に市の対策本部を設置するべきだと思います。ITやAIの時代に大きな庁舎はいりません。

- 電子化・IT化により、職員を減らし、今より小ぶりの庁舎とすべき。余ったスペースにごみ焼却場・処理場をを移転することにより一か所に集中し、市内処理率を100%とする。
- 期待よりも不安が大きい。まずはどのような構想なのかを、きちんと市民に説明してほしい。
- 前問同様。移転先を選定するために市民と行政との十分な対話があったかどうか不明瞭、説明不足と感じる。移転先でのサービス云々以前の問題があることを認識すべき。
- 「移転」を前提とした質問には返答しかねる。また、「ヘルシー」「ウェルネス」をまちづくりに反映させるのであれば、他のまちづくり方針にも導入されたい。今までのまちづくりの方針に「ヘルシー」「ウェルネス」を謳ったことが無いにも関わらず、この案件について突然「ヘルシー」を持ち出すのは唐突に感じられるし、軽率である。
- 移転先の再検討が必要と思われます。
- 特になし。

【質問 7-4】 現在地（現在の市役所本庁舎のある場所）で期待すること

1. 移転後も窓口利用や相談が快適にできること	65 名
2. 鎌倉地域の防災対策	47 名
3. 中央図書館や生涯学習センターの機能等について公共施設を再編することで、人や情報とつながる場となること	66 名
4. 敷地（建物以外）のオープンスペースの有効活用（広場など多目的利用、憩いの場等）	38 名
5. 交通対策（駐車場の縮小、周辺道路の渋滞緩和等）	49 名
6. 便利な民間施設（物販、金融、飲食など）の併設があること	30 名
7. 民間施設の併設などによる賃料収入などによる歳出の抑制	43 名
8. 特になし	9 名
9. 整備費や維持管理費が増えるものは不要	30 名
10. その他	23 名



【公的不動産活用課より】

「中央図書館や生涯学習センターの機能等について公共施設を再編することで、人や情報とつながる場となること」、「移転後も窓口利用や相談が快適にできること」とのご意見がそれぞれ約4割の方からあるなど、様々なお考えを聴くことができました。今後の検討の参考とさせていただきます。

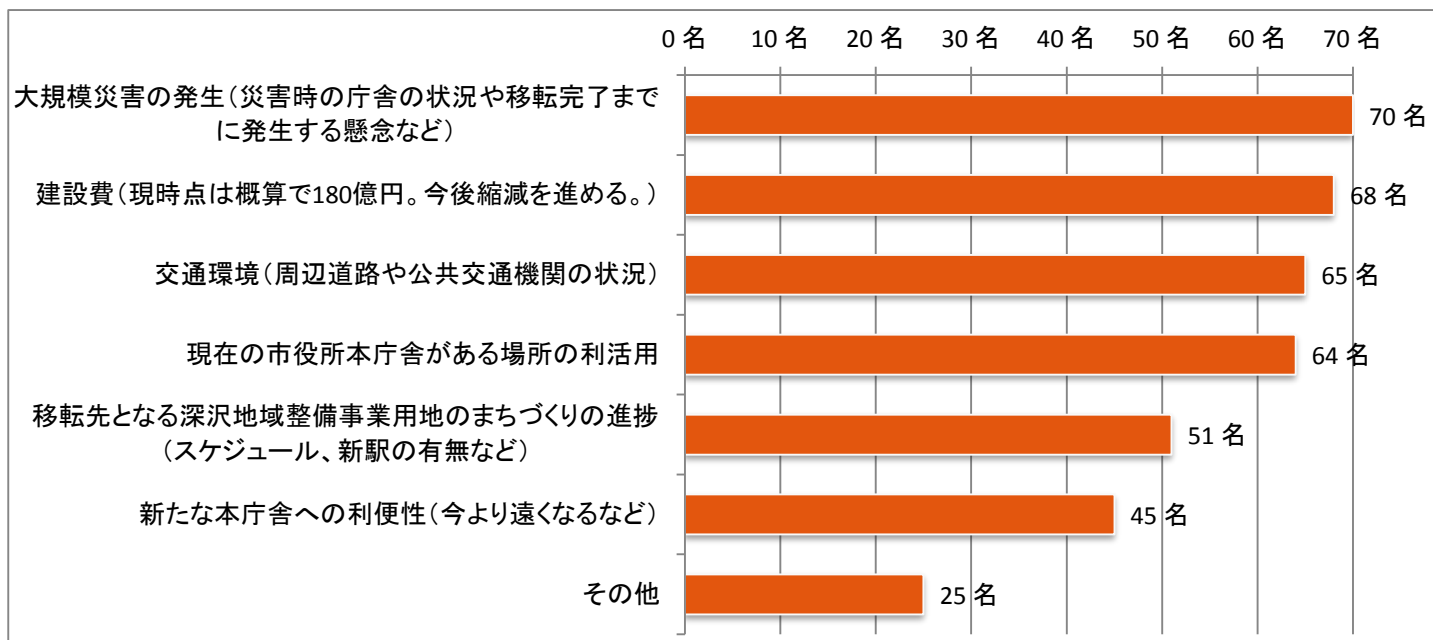


【その他（23名）】…22名の方から次のご意見をいただきました。

- 現市役所の利用。
- 鎌倉観光拠点として、鎌倉の歴史文化の市民及び観光客への発信。市民・観光客が自由に利用できる、スペースの確保。例えば“市民の皆様・観光客お客様コーナー”の設置。
- 本庁舎でないと対応できないサービスの一覧。
- 鎌倉市を代表して市民と観光客に展示できる The KAMAKURA 館的な部屋が欲しいですね。民間委託がベター。
- 観光案内所、市内情報共有施設。
- 鎌倉の顔としての存在。
- 十分な駐車場の確保。
- 現状維持してください。
- 市民のこころのよりどころとなるように積極的に活用すること。
- 観光・教育・社会福祉を横に繋ぐまちづくり活動拠点の創出。
- 集合住宅などの民間利用は絶対にしないこと。
- 平和宣言の石は深沢に。
- 現在の生涯学習センター（公民館に相当）にあるホールを移転させ、規模の大きい快適な施設にする。現在のホールは老朽化が激しく、外部の団体や講演者に申し訳ない気がします。
- 現在地に市役所機能を残すべきだと考えるので、その他のことは何も期待していない。
- 本庁舎の移転反対。（4件）
- まだ正式に決まった事ではないと思いますが？
- 移転することのメリットが分からない。今までの場所に、最低限必要な機能だけあればよい。大きな建物なども不要。
- 移転先の再検討が必要と思われます。
- 「移転」を前提とした質問には返答しかねる。「3つ」とのことなので、その他以外は便宜的に選択した。
- 災害時に前線基地とするなら、鎌倉警察か消防署に市の対策本部を設置するべきだと思います。ITやAIの時代に大きな庁舎はいりません。

【質問 8】（必須）市役所本庁舎の移転整備により、将来の社会変化に柔軟に対応できる仕組みを備えたスマートでコンパクトな市役所、災害時には市民の生命を守る前線基地となる市役所などを目指しています。本庁舎の移転整備について、皆さまが関心をお持ちの点を教えてください。（選択肢を3つ）

1. 大規模災害の発生（災害時の庁舎の状況や移転完了までに発生する懸念など）	70名
2. 建設費（現時点は概算で180億円。今後縮減を進める。）	68名
3. 移転先となる深沢地域整備事業用地のまちづくりの進捗（スケジュール、新駅の有無など）	51名
4. 新たな本庁舎への利便性（今より遠くなるなど）	45名
5. 交通環境（周辺道路や公共交通機関の状況）	65名
6. 現在の市役所本庁舎がある場所の利活用	64名
7. その他	25名



【公的不動産活用課より】

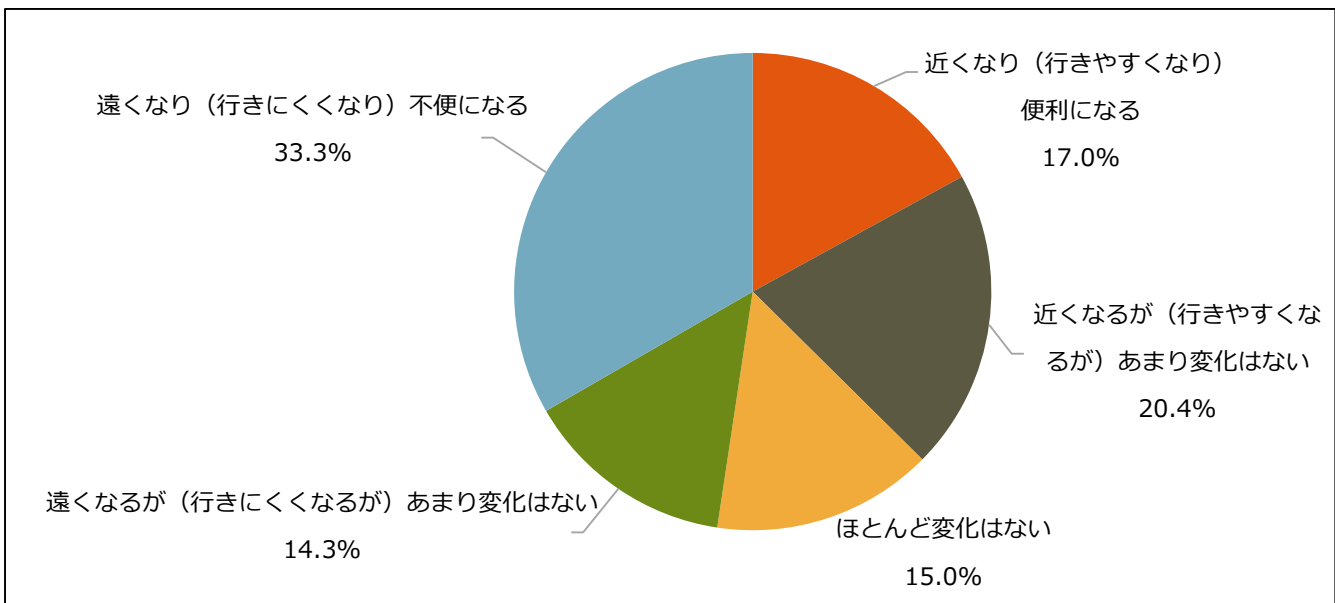
約5割の方が「大規模災害の発生(災害時の庁舎の状況や移転完了までに発生する懸念など)」、「建設費(現時点は概算で180億円。今後縮減を進める。)」とのご意見であることがわかりました。これに次いで、「交通環境(周辺道路や公共交通機関の状況)」、「現在の市役所本庁舎がある場所の利活用」とのご意見がそれぞれ約4割の方からあるなど、様々なお考えを聴くことができました。今後の検討の参考とさせていただきます。

【その他(25名)】…25名の方から次のご意見をいただきました。

- 建物のデザインや 風景の変化、風の流れ。
- スマートでコンパクトな市役所を現在地で建て替え、災害時には市の大作本部を警察または消防に設けること。
- 移転先での大規模災害発生時被害想定。
- 深沢へは行きたい人が御成で済ませられる役所を作って欲しい。
- 市民プールも近くに移転して欲しいです。
- 市庁舎単体の会計でなく、移転を前提とする10年～20年程度の長期ビジョンとしての財政&経営計画
- 本庁舎の移転反対。(4件)
- 災害時に市民の生命を守る前線基地は地域に根差した支所であり、一極集中型の市役所だとは思っていない。移転計画ありきの現在までのやり方については納得できない。まずはどのような行政機能が必要なのか、多くの市民と話し合いの場を設けるべき。広報でいきなり「市役所移転が決まりました」というようなやり方は姑息としか言いようがない。
- まだ正式に決まった事ではないと思いますが？
- 深沢の地理上、相応しいとは思えない。せめて大船駅周辺で再検討してほしい(戸塚区は駅直結ですごく便利になった)。
- 移転には反対です。鎌倉警察署の現在の移転場所が海の近くにしたことにも市に対して不信感をもっています。
- 深沢を前提としているのでその他としました。
- 「移転」を前提とした質問には返答しかねる。また、建設費用詳細、交通計画などの説明、見通しが薄い状況でアンケートを取ることに疑問を感じる。また、「3つ」とのことなので、その他以外は便宜的に選択した。
- ハザードマップ上で浸水地域となっている場所に移転する計画は全く理解できない。
- 移転先の再検討が必要と思われます。
- 費用をかけて市民サービスを犠牲にされてはたまらない。
- 新駅計画は撤回されたと理解しています。またスマートでコンパクトな新市役所庁舎を目指すのであれば現状の2.5倍の面積は必要なのでしょうか？
- 市議会決議を経ずして「移転先が決定した」とする本件の経緯。
- 市民の無関心。旧鎌の人達との分断。鎌倉の人が「深沢」は不便という意見は、今まで深沢の人は「鎌倉」へ行かねばならず不便を強いられていたという意味になるのではないだろうか？
- 質問が重複している。
- 7-4で回答済み。質問が重複していて、何を聞きたいか不鮮明。
- 質問の意図が分かりません。
- 特になし。

【質問 9】（必須）市役所本庁舎が深沢地域整備事業用地（行政施設用地）に移転することによって利便性はどのように変化しますか。

1. 近くなり（行きやすくなり）便利になる・・・（よく利用するので助かる）	25 名
2. 近くなるが（行きやすくなるが）あまり変化はない・・・（あまり利用しないので、利便性は大きく変化しない）	30 名
3. ほとんど変化はない・・・（利用するがほとんど変化はない、ほとんど利用しない）	22 名
4. 遠くなるが（行きにくくなるが）あまり変化はない・・・（あまり利用しないので、利便性は大きく変化しない）	21 名
5. 遠くなり（行きにくくなり）不便になる・・・（よく利用するので困る）	49 名



【公的不動産活用課より】

「あまり変化はない」、「ほとんど変化はない」とのご意見が合わせて約 5 割を占める一方で、「遠くなり（行きにくくなり）不便になる」とのご意見を 3 割の方からいただきました。



【質問 10】（必須）その他、ご意見がございましたらご自由にご記入ください。

68名の方からご意見をいただきました。

【期待すること】

- 高齢者交流や、行政が主体的に動いての認知症予防のための活動、ボランティアの育成など、高齢者対策を他の自治体に先駆けて、率先して取り組んで欲しい。そのための拠点としての新庁舎の機能を期待する。
- 総合スポーツ施設併設を期待します。
- 鎌倉は狭いので多少の場所の変化は影響なし。
- 今まで鎌倉駅を便利に利用していた市民のためにシャトルバス等検討して下さい。
- とにかく、市役所としての本筋を忘れずにいてほしい。その為の住民施設であってほしい。平日日中働いている人は、用がある時は休みをとらないと市役所を使用出来ない。時間帯や曜日を考えほしい！深沢図書館も同様。
- 移転に伴い、窓口のサービス、事務処理の効率が良くなれば良いと思う。
- 役所の利便性を考えるのではなく、市民ファーストで市民の生活の為の利便性を先ず第一に考えるべき！
- アクセスが脆弱であり、道路整備を含めて、特段の配慮を要する。豊島区役所のような民間力の活用や、空間利用を通じて、負担資金の低減に努めて欲しい。
- 山崎なので、深沢、大船どちらでもよいが、じじばばのバス割引があると、市役所の付帯設備利用し安いが。
- 基本的な行政手続き機能（市民とのインターフェース機能）は、現在地でも継続して、利用できるように残すべき。
- 新庁舎はモノレール活用を考えること。旧庁舎は、定期借地契約で民間に資金調達、運営を委託。1 階は民間の店舗等に（収入）、2 階は支所、図書館、保育園等（家賃支払い）に、屋上は避難場所にする。

- 現在は腰越支所を活用しているが、「閉鎖」となると何かと不便になると思う。
- 私は材木座に住んでいるので、深沢には行ったことがありません。たぶん行かないと思います。だから現在の市役所の場所で、あるいは駅周辺で書類手続きなどができるようにしておいてもらいたいです。行くこともない場所に市役所をつくるという大胆な計画にはいまだに首をひねるばかり。
- 道が狭いので、混雑が不安。選挙公約に移転はありましたっけ？
- この場をおかりして。。。鎌倉ブランドの価値がさらに高まるためには寺社にアクセスする道路の拡幅と歩道の整備が不可欠。八幡宮前の駅方から小町通りを抜けた当たりの危険性は何とかしたいところですね。八幡宮側に余地があるので話し合ってみては如何でしょう。加えて宿泊施設（ホテル）の誘致も必要かと思えます。

【深沢移転に関して】

- 早期の完成を期待します。
- 7年先とはあまりにも長い。スピード感を持って取り組んでいただきたい。
- 移転反対についての勢力が動いているようだが、行政側の主張は十分理解できるので、深沢移転を進めてもらいたい。大船地域で再開発や市役所移転にならないのは結局のところ守旧勢力が蠢いている結果であり、深沢地域を鎌倉市の第三の核にすることで地域経済も活性化するのではないか。
- 地域エゴやりに負けずに初志貫徹で頑張ってください。
- 目的から庁舎移転には賛成である。しかし、建設費用が桁違いに高すぎる。スマートでコンパクトな市役所に必要なのは豪華な建物ではありません。民間で建設する場合でも費用は10分の1以下となるであろう。また、防災対策と現庁舎の老朽化目的の移転は数年で速やかに完了すべきである。何を1年間検討するのか？
- 不便になるという人もいれば便利になる人もいる。現在の建物の耐震性能の問題もあるので早期に移転すべき。7年は長すぎる。やみくもに時間をかけることが慎重な姿勢とは限らない。完成が下手をすると3代先の市長では計画そのものが無責任ととらえられかねない。
- 時間かかりすぎです。市役所に7年かかるならその前に住宅、マンションを造ってほしい。いつになるのか見通しがたたない。若い世帯が家を買おうにもいつまでも深沢にできないから藤沢などに次々できるマンションなどにどんどん転居してる。とりあえず住宅を。
- 大きな費用をかけての新庁舎建設移転。市、住民の負担軽減のため鎌倉市訪問税又は観光税の新設。
- 本庁舎機能の移転に賛成します。しかし今回は、質問者の意図が、あまりに見えてしまう設問だと思います。火に油を注ぐ様なアンケートは、対立が明らかになりつつある現在、あまり賛同できません。現在の本庁舎がなくなったその場所や周辺の移転メリット、ほかの地域のメリットを明確にし、旧本庁舎の市民のための生きた活用を強調することで、スムーズな切り替えができたはずです。小さな市民集會を重ね、細かな意見交換をしてアイディアを募り、市長や市の幹部が生声で説明する説得力は非常に強かったらうと、残念に思います。市民と行政が対話を重ね、同じ方向を向く、良い機会にもなったでしょう。そうした細かな手続きを踏むことで、いつの間にか移転メリットを市民が理解できていることが、行政としても、「政治」としても大切だったのではないのでしょうか。個人的にその丁寧さを省き、既成事実化してイキナリ広報に出してしまった手法は、拙速と言われても仕方ないかな、と思います。ひとたび政治問題化してしまえば、現在政権で移転作業を続けるのは難しいと思います。残念です。

【説明・検討に関して】

- 市民への広報活動の徹底。1：何故移転しなければならないか。2：如何にサービスが向上するか。3：今の施設の、有効活用。
- 市役所移転・ごみ焼却地移転などの大きな事業があります。市民全員の意見を聞くことは大切ですが、1%の市民の承諾は得ることはできません。ベターの方で行政をすべきだと思います。
- 短時間・短文で意見表明するような事案ではないと考える。市民と行政がもっと深く意見交換すべき。
- 移転に関する情報発信やプロセスが暴力的。市長は市長選で民意を得たと話しているようだが、それは全くの勘違いである。結果がどうなるかわからないが、このアンケートの結果は市役所移転にフォーカスした、より切実な民意であると受け止めてほしい。市民を軽視した市役所や市長の市役所移転への進め方には不快感しかない。
- 質問1に「市役所本庁舎の整備について、移転して整備することを決定しました。」とありますが、一部の市議からそれは市長が勝手に言っていることでまだ議会の了解が得られていないと聞いています。このような大きな案件に場合、市民の賛否を問うべきではありませんか。
- 移転そのものが、「市民・市議会が承認していないため、まだ決定されていない」との主張が、一部市議や市民団体に大きく取り上げられております。一市民としてはこのような鎌倉市の混乱した状況に困惑しております。市と市議・市民団体のどちらを信用すればよいのでしょうか？どちらの主張が正しいのでしょうか？よろしく願いいたします。
- 突然の移転発表は、市長、市議会議員、市役所職員の方々等々に対する深い不信感をもちます。
- 深沢は地形的にも決して安全な場所とは言い難く、交通機関も湘南モノレールとバスしかない不便な場所だ。
- 東海道線の新駅という構想があるらしいが、鎌倉市内に作るわけではなく、計画からコントロールできるようなものではないのであてにできるものではない。（むしろ新駅は不要だと考えている）仮に新駅ができたとしても川向うでアクセスが悪く、期待できるものではない。市役所移転については白紙撤回し、行政機能の見直しからオープンな議論を行うべきだと考える。また、今回のアンケートではすでに市役所移転が完全に決まったかのような設問形式だが、設問内容に違和感を感じている。
- このアンケートを読みますといつの間には決まった事に決まっていな事を既成事実化している様に取りれます。旧鎌倉地区の津波対策はどうするのですか？市役所だけが旧鎌倉地区の住民を見捨てて逃げて行く様に感じます。しっかりした津波対策をすれば何も市役所を膨大な費用をかけて移転する必要はないのでしょうか？責任のある回答をお願いします。
- 移転すること自体が市民権、議会が納得していないのは？

- 市民の過半数の賛成を得ているのか疑問である。
- いつ本決まりになったのかわからないうちに、アンケートが来たことが、そもそもとても残念。市職員の皆さんは議論したのかもしれないが、市民との対話や検討が十分とはとても思えない。もし決定してしまったというのなら、もう一度白紙に戻してほしい。
- 質問9は「その他」選択が無いので選んだ「3」は本意ではありません。深沢移転は決定と言われていますが私には（友人知人に聞いても異口同音に深沢移転は本当なの？）良く解りません。
- 後日連絡。
- 深沢移転ありきのアンケートとなっており、行政側のアリバイ作りのためのデータ集めにしか見えない。そもそも移転自体はまだ何も決定していないのに市民を愚弄するにも程がある。先日の市長記者会見での市長の発言によれば、深沢は浸水地域に該当するが、施設をかさ上げして対応するつもりだが、その予算は18億には含まれていないとの事。もしかして君たちは市民を馬鹿にしているのか？
- ・本庁舎場所の変更にあたり、地方自治法第4条により「出席議員の3分の2の賛成を得ましたか」本事案を公表して頂きたい。・本庁舎場所は移転せずに、高さ制限を10mから15mに条例を変更（緩和）して対処するのが好ましい。
- ただでさえ財政難の中で、庁舎を移転するなど全くもって馬鹿げた話である。市長や行政と、地権者や建設会社との癒着を疑わざるをえない。後世に負の遺産を残してまで、箱物を作るなど時代錯誤もいところ。
- 市役所の移転については、市民に対して十分な案内がないまま進められた感が極めて強いと思います。改めて、市役所の移転自体を市民に問うべきである。現市長を必ずしも否定するつもりはなく、支持する点も数多くあるが、市長選で当選したことが、移転についての承認との解釈はあまりにも乱暴な考え方と考えます。
- 市長室、市議会などを備えた「市役所」は、鎌倉駅の近辺にあるべき。
- 国内外の優れた事例を参照し、基本構想基本計画段階では優れた専門家を参画させること。
- 質問7がわかりにくかった。移転が正式に決定したのか否かが今までの広報から読み取り難かった。
- 深沢の駅周辺の人は説明を受けていたかもしれないけれど、知らなかった人は多い。公告の方法が十分ではなかったと思う。決定の後に市議会で承認を得るとするのは当然のことであるが、旧鎌の人達が今まで関心がなさ過ぎたことに驚いた。逆に世界登録遺産のとき、深沢の人が関心を持っていなかったし、情報も入ってこなかったのと同じ仕組みがある。しかし、世界登録遺産のときは、市議会もここまで大きく反対もしてこなかった。深沢は本当に鎌倉市なのか、ただ、人口増加、住民税増加、などの調整のために利用されているだけではないか？
- 深沢地域整備事業用地への移転はまだ決定されたわけではない。このアンケートは移転が前提になっており、深沢への移転自体の是非は全く問われていない。まずは移転先がここでいいのかを市民に問うべきではないだろうか。
- 建設地区予定の深沢に行っても今の場所に行っても現在は災害区域に入っているようであれば今の市役所周辺に住んでいる方は元々、災害区域内なのに市役所だけは当初は災害区域外になっている深沢へ移転する考えは市民のことは二の次なのかなと思ひ悲しくなりました。災害ボランティア訓練を1年に1回行っているそうですが最新の訓練方法ではなく全く機能していないと聞き、いざとなったら本当に機能するのか非常に不安です。
- 市役所移転後の鎌倉地域のあり方や経済活動について、神社仏閣、商工会議所や商店街連合会といっしょに話し合う場を設けて、鎌倉市全体の街づくりをpushしておくべきではないか。不満や反対意見を持つ人たちへの多角的な対策が必要だと思う。
- 鎌倉全体、及び近隣自治体との社会的・空間的関係をどのように変えたいかの長期ビジョンを説明しないで、点的な企画を問いかける姿勢が残念です。深沢エリア、大船エリア、旧市街地エリアがどのように連携して超高齢化社会を創造的に乗り越えてゆくか。。の先にはじめて、市庁舎移転の意見聴取になるはず。
- （勿論、マスプラP.19-24は熟読してますが）また、質問7の回答選択肢に「大規模駐車場」とあるのを見て、そんなレベルの交通計画を元に深沢エリアの再構築を検討しているのであれば恐ろしい事です。都市のコンパクト化がブームの昨今、これだけの都市拡大・多核化を進める勇氣には驚きますが、この企画による環境的・社会的な影響をどう評価しているのかを公開して欲しいものです。（環境アセスは読んでますが）。
- ハザードマップの「1年に一度」というイメージに安心感を覚えている人が多いが前提となっている一時間降雨量74mm程度は少なすぎる。一時間1mmも線上降雨帯がくればすぐに超える近年の気象変化を見据えると、深沢の敷地はアクセスできない先日の倉敷市内の病院のような浸水エリアの孤島になると思います。その際の防災本部に二重化を目指して現在の市庁舎跡地の機能強化を強く希望致します。
- この質問票が「市役所移転」を前提に構成されている事と、「かまくら」の一面に「市役所移転します」と突然載せた事、両者に「刷り込み操作」の様な「恣意性」と「違和感」を感じる。あの「かまくら」を鵜呑みにしてしまった回答者が存在するとすれば、それは「移転ありき」での返答であり、「多くの市民から拾い上げた意見」では無い。パイアスが強く掛かった返答である。このe-モニターへの回答が今後「広く市民に意見を聞いた上で…」の一作業として取り入れられてしまうならば、「市が我々をその手段のコマとして利用した」と案じるに至る。因みに当方は移転に賛成でも反対でも無い。市長、市担当者の「やり方」「周知方法」に大きな疑念を感じている。一体、何が市長、市担当者を動かしているのか、その原動点を知りたい。当方のこの返事がe-モニターの回答集に載ることを期待して観察している。
- 決定は妥当なんでしょうか？当アンケートにおいても決定を前提にしておりますが、そもそも決定に至るプロセスにおいて多様な意見を聞き、それをどのように判断したのか説明を尽くしているとは考えられません。
- 財政が厳しいと言いつつも、市長議員への手当が神奈川県内上位にあり、また当計画でも多額のコストがかかり、その一方で行政サービスの質が低いのでは、納得できません。
- 現在の進め方は形式的に説明責任を果たしているに過ぎず、真の意味で市民各位の意見・意思を吸い上げたものになっていないと言う感が強いです。少し時間は掛かり過ぎているようですが、今一度市民の多数意見を確認して頂きたいと思ひます。幸いにもオリンピックで建設費が高騰しているため、少し先に延ばしても価値ある市役所を造って下さい。
- このアンケートのすべてが、改めて深沢移転決定を強引に既成事実化していることが非常に驚いた。これだけメディアでも問題視されているのだから、なぜここまで性急に強引に進めようとしているのか。市役所はあの場所にあるのが歴史です。移転には絶対に反対。勝手に市長、職員で決めないで欲しい。

- 新駅ができないと深沢に移転する意味がないほどの影響があるがいつ実現するのかそこにかかる費用がどこまでになるかなど知られていないことが多く、市庁舎移転も実現される感じがしないというのが正直なところです。

【深沢移転に関して】

- 移転は不要と考えます。現在の場所にコンパクトな市庁舎への建替えが妥当かと考えます。
- 初めて知りました。基本的に反対です。
- いきなり決まったという感じ。決定プロセスの開示を SNS で発信すべき。
- 移転計画には反対です。(2 件)
- 利便性は全くない。
- 本庁舎移転に反対。利便性でも JR 駅に近かったのに、渋滞問題、モノレールやバスの混在等も想定でき、さらに職員の交通費等も増えるのでは？例えば、税務署と役所を一度に済ませられたものが非常に不便になる。
- そもそも、わざわざ何のために深沢に移すのか、未だに分からない。鎌倉市役所は鎌倉地区の中心にあることが当然であり、建て直すにしても現在地で行うべき。深沢は防災拠点・揉めているごみ焼却場等に使い、余剰地は売却して、すべての整備資金を捻出することにすればよい。
- 市内の僻地にある役所なんて聞いたこともない。今までどおり、御成で済むようにしてもらいたい。深沢に作ること自体、市民の発想と、かけ離れてる。

【その他】

- 特にございません。
- ありません
- なし

【公的不動産活用課より】

多くのご意見をいただき、ありがとうございました。

皆さまからいただいたご意見を今後の検討の参考とさせていただくとともに、引き続き、市民の皆さまからのご意見伺いながら、市役所本庁舎等の整備に取り組んでまいります。

ご協力ありがとうございました。

鎌倉市 共創計画部 広報広聴課 広報広聴担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

TEL 0467 (23) 3000 内線 2506

FAX 0467 (23) 6505

e-mail : emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp

3. 災害リスクの再検証と本庁舎等整備について

3-1 地震及び洪水の被害の想定

1) 地震（津波による浸水）の概要と被害予想

神奈川県地震被害想定調査（平成 27 年（2015 年）3 月）による地震の被害の概要は次ページの表のとおりです。

想定条件は、冬季の平日、発生時刻は 18 時、風速・風向は、気象観測結果に基づく地域ごとの平均となります。ただし、津波による人的被害の想定に当たっては、津波から避難する際に条件が厳しい平日深夜（午前 0 時）発災を条件としています。

相模トラフ沿いの最大クラスの地震が発生した場合、建物被害は全壊が 19,160 棟、死者 13,940 人、避難者数 116,630 人（1 日～3 日）の想定となります。

表 本市の地震災害想定被害※3

(出典：神奈川県地震被害想定調査報告書(平成27年3月))

項目	地震名	想定地震					参考地震						
		都心南部直下地震	三浦半島断層群の地震	神奈川県西部地震	東海地震	南海トラフ巨大地震	大正型関東地震	元禄型関東地震	相模トラフ沿いの最大クラスの地震	津波による被害のみ想定			
									慶長型地震	明応型地震	元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震		
モーメントマグニチュード (Mw)		7.3	7.0	6.7	8.0	9.0	8.2	8.5	8.7	8.5	8.4	8.3	
本市における最大震度/最小震度		6弱/5強	6強/6弱	5弱/5弱	5強/5弱	5強/5弱	7/6強	7/6強	7/6強	—	—	—	
建物被害	全壊棟数(棟)	720	1,080	70	1,840	3,250	13,400	15,000	19,160	4,470	4,220	2,770	
	半壊棟数(棟)	4,740	6,050	200	1,680	1,520	12,880	13,320	12,100	2,260	2,380	2,130	
火災被害	出火件数(箇所)	*	*	0	0	0	60	60	90	—	—	—	
	焼失棟数(棟)	520	20	0	0	0	7,850	7,850	10,990	—	—	—	
死傷者数	死者数(人)	30	50	110	460	800	2,530	8,550	13,940	1,070	1,030	5,200	
	重傷者数(人)	40	50	*	*	*	370	370	510	*	*	20	
	中等傷者数(人)	400	480	10	20	20	2,510	2,520	3,310	10	20	100	
	軽傷者数(人)	610	740	20	20	20	2,810	2,820	3,520	10	20	100	
避難者数	1日目~3日目(人)	9,310	13,290	840	10,610	14,210	97,280	100,940	116,630	—	—	—	
	4日目~1週間後(人)	9,310	10,790	840	10,610	14,210	97,280	100,940	116,630	—	—	—	
	1か月後(人)	9,310	10,790	480	7,520	11,300	77,660	81,430	99,990	—	—	—	
要配慮者	避難者	高齢者数(人)	1,270	1,820	110	1,450	1,940	13,300	13,810	15,950	—	—	—
		要介護者数(人)	370	530	30	430	570	3,890	4,040	4,670	—	—	—
	断水人口	高齢者数(人)	0	1,060	0	0	0	18,250	18,250	20,880	—	—	—
		要介護者数(人)	0	310	0	0	0	5,340	5,340	6,110	—	—	—
	家屋被害	高齢者数(人)	2,100	2,520	110	1,360	1,860	12,320	13,130	15,740	—	—	—
		要介護者数(人)	610	740	30	400	540	3,610	3,840	4,610	—	—	—
帰宅困難者	直後(人)	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	—	—	—	
	1日後(人)	0	0	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	11,810	—	—	—	
	2日後(人)	0	0	0	0	0	11,810	11,810	11,810	—	—	—	
自力脱出困難者(要救出者)(人)		70	90	0	0	0	2,140	2,140	3,500	—	—	—	
ライフライン	上水道	断水人口(直後)(人)	16,030	29,680	0	0	*	133,430	133,430	152,680	—	—	—
	下水道	機能支障人口(人)	6,250	6,260	1,240	1,250	1,280	18,170	18,170	29,550	—	—	—
	都市ガス	供給停止件数(戸)	0	0	0	0	0	65,960	65,960	65,960	—	—	—
	LPガス	供給支障数(戸)	160	160	0	0	0	210	210	340	—	—	—
	電力	停電件数(軒)	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	125,950	—	—	—
	通信	不通回線数(回線)	64,430	64,510	64,360	66,420	68,010	65,700	66,000	66,740	—	—	—
エレベーター停止台数(台)		210	210	*	*	*	210	210	220	—	—	—	
災害廃棄物量(万トン)		32	37	2	35	57	340	367	464	—	—	—	
従来の定義の負傷者数	重傷者数	190	240	*	10	10	1,760	1,760	2,410	10	10	70	
	軽傷者数	850	1,040	20	30	30	3,930	3,940	4,930	20	20	140	

※3 *：わずか(計算上0.5以上、10未満) / —：想定値なし(津波による被害のみ想定のため)

想定地震：この調査において、神奈川県に及ぼす被害の量的・地域的な状況や、発生の切迫性などを考慮し、選定された地震

表 本市の地震災害想定被害に対する津波予測※4

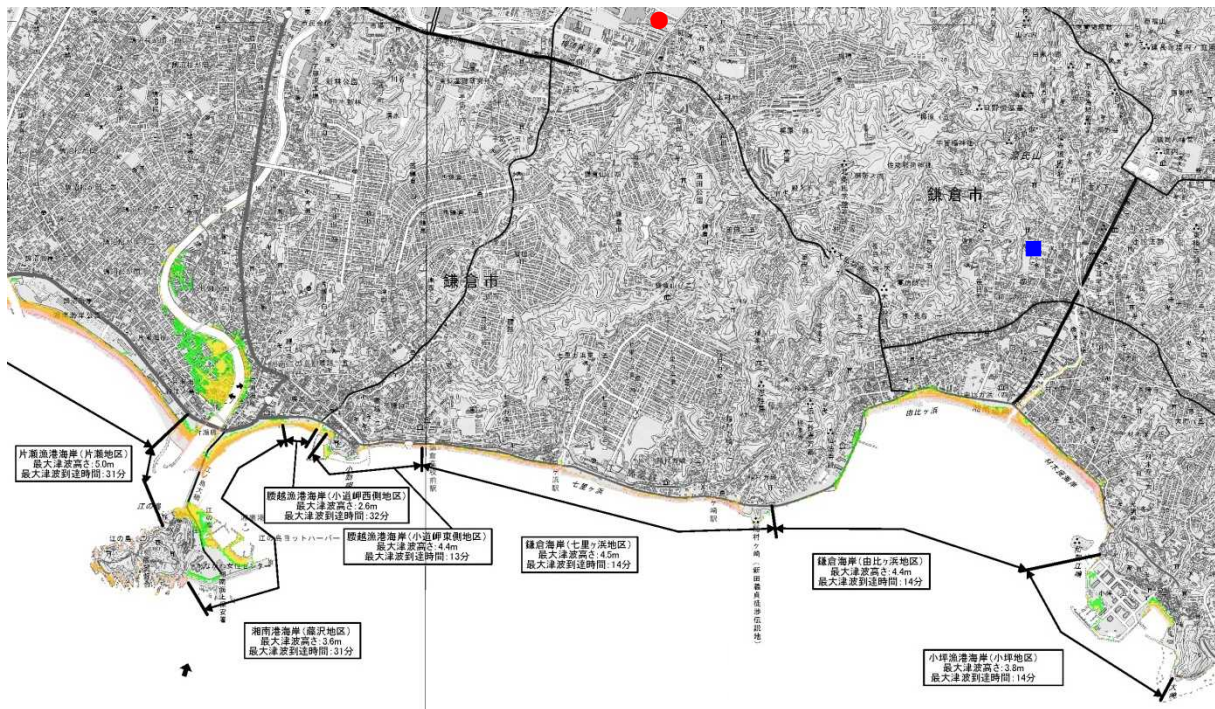
(神奈川県作成の地震ごとの津波浸水予測図等を基に作成)

項目	地震名	都心南部直下地震	三浦半島断層群の地震	神奈川県西部地震	東海地震	南海トラフ巨大地震※6	大正型関東地震タイプ	元禄型関東地震タイプ	相模トラフ沿いの海溝型地震		慶長型地震	明応型地震	元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震	西相模灘地震
									西側	中央				
本市最大津波高さ(m)※5		—	—	4.5	3.9	10	7.2	9.2	14.5	12.6	10.2	10.3	9.1	1.8
由比ヶ浜の最大津波高さ(m)		—	—	4.4	3.9	—	6.5	7.9	13.0	11.4	10.2	10.3	7.7	1.8
由比ヶ浜の最大津波到達時間		—	—	14分	67分	—	8分	12分	14分	26分	77分	56分	8分	37分
現在地敷地への津波到達の有無		—	—	無	無	無	無	無	△	×	×	×	無	無

※4 凡例：「—」：本市における津波の高さ等の明記なし、「無」：到達しない、「△」：現在地至近まで浸水、「×」：敷地内に浸水の可能性有り(神奈川県作成の地震ごとの津波浸水予測図参照)

※5 元禄型関東地震では、小田嶋東側地区と七里ヶ浜地区、慶長型地震・明応型地震・東海地震・西相模灘地震は由比ヶ浜地区、元禄型関東地震と国府津-松田断層帯の連動地震は小田嶋東側地区、それ以外では、七里ヶ浜地区が最大津波高さとなっている。

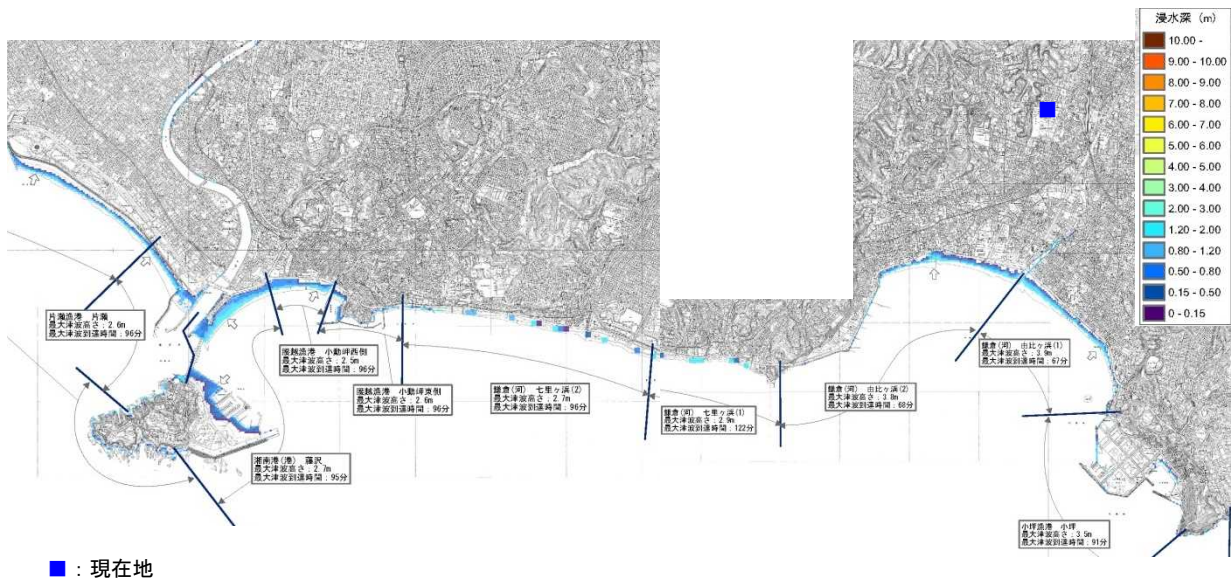
※6 南海トラフ巨大地震については、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ(内閣府ホームページ)における都府県別市町村別最大津波高一覧表<満潮位>を参照しています。



■：現在地
●：深沢地域整備事業用地（行政施設用地）



図 津波浸水予測図 神奈川県西部地震
(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)



■：現在地

図 津波浸水予測図 東海地震※7
(平成 24 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

※7 深沢地域整備事業用地（行政施設用地）は予測図の図郭に含まれていない。

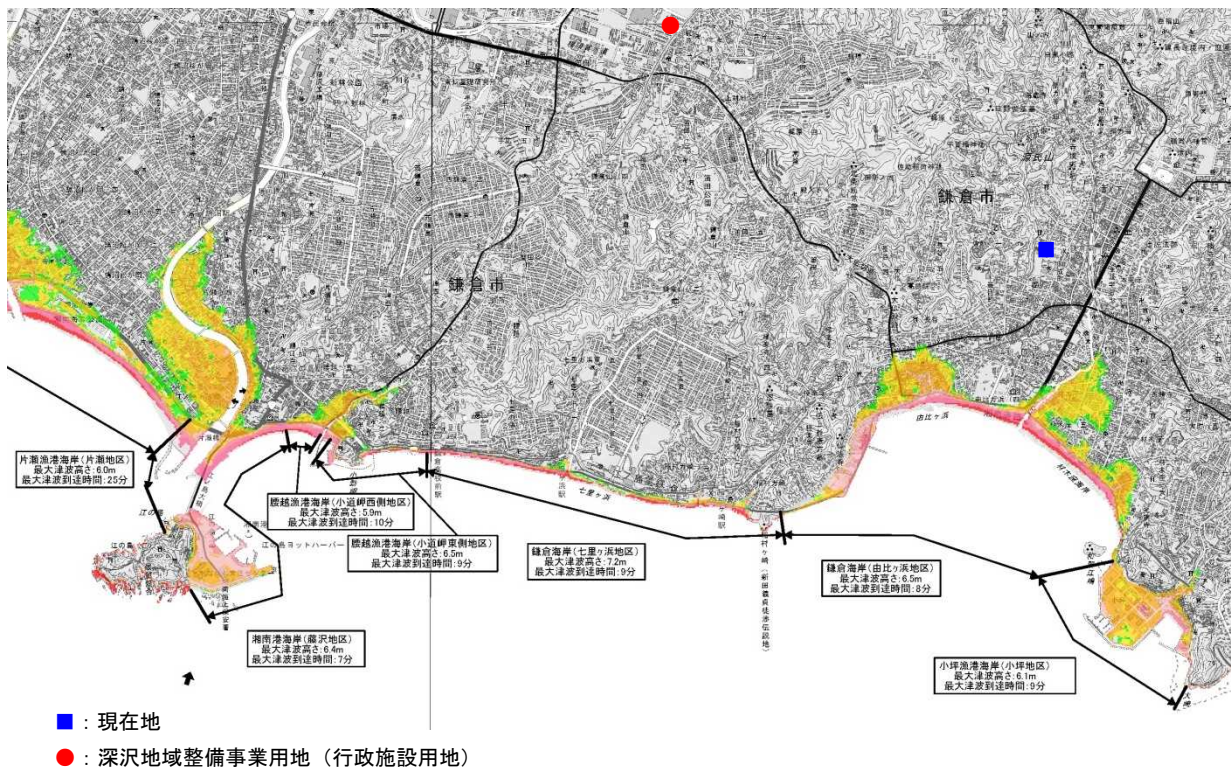


図 津波浸水予測図 大正関東地震タイプ

(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

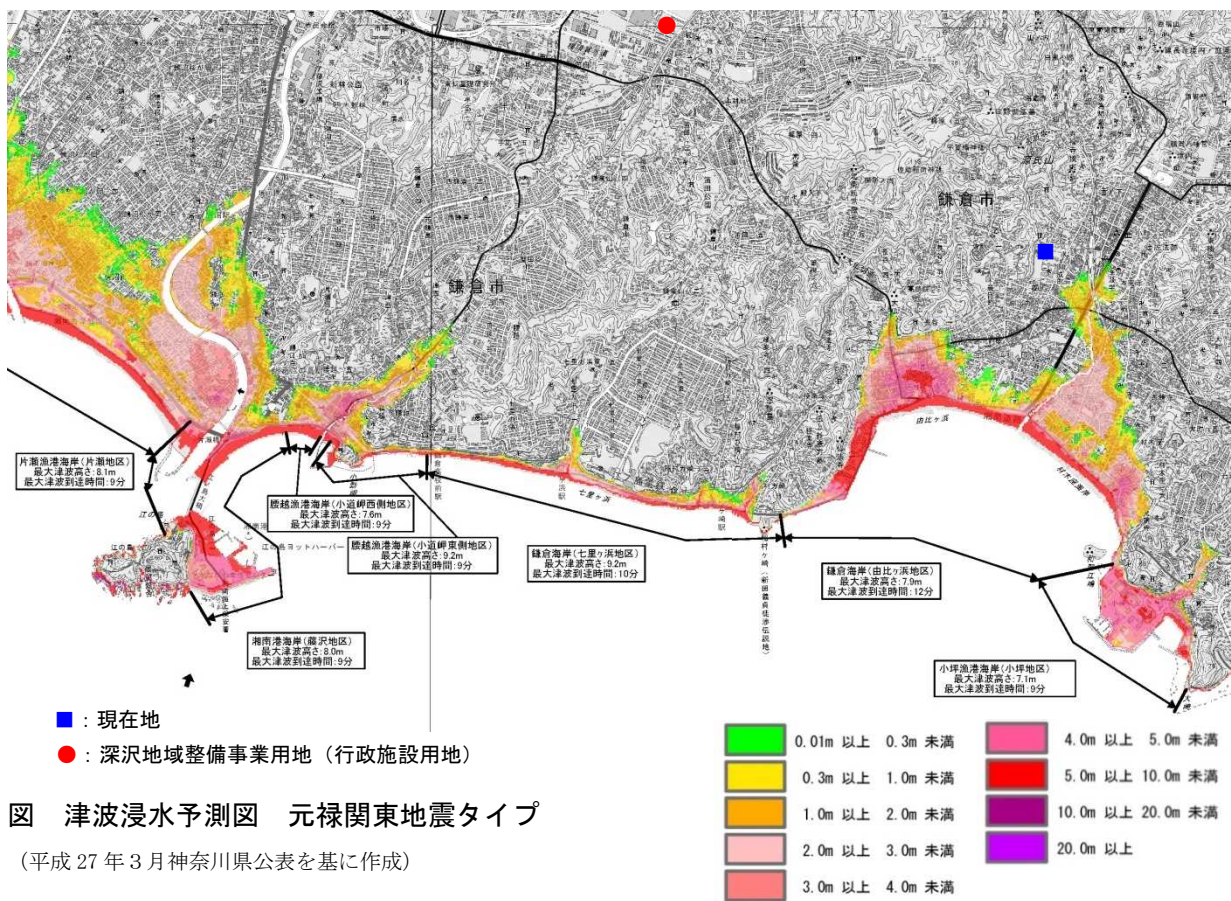


図 津波浸水予測図 元禄関東地震タイプ

(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

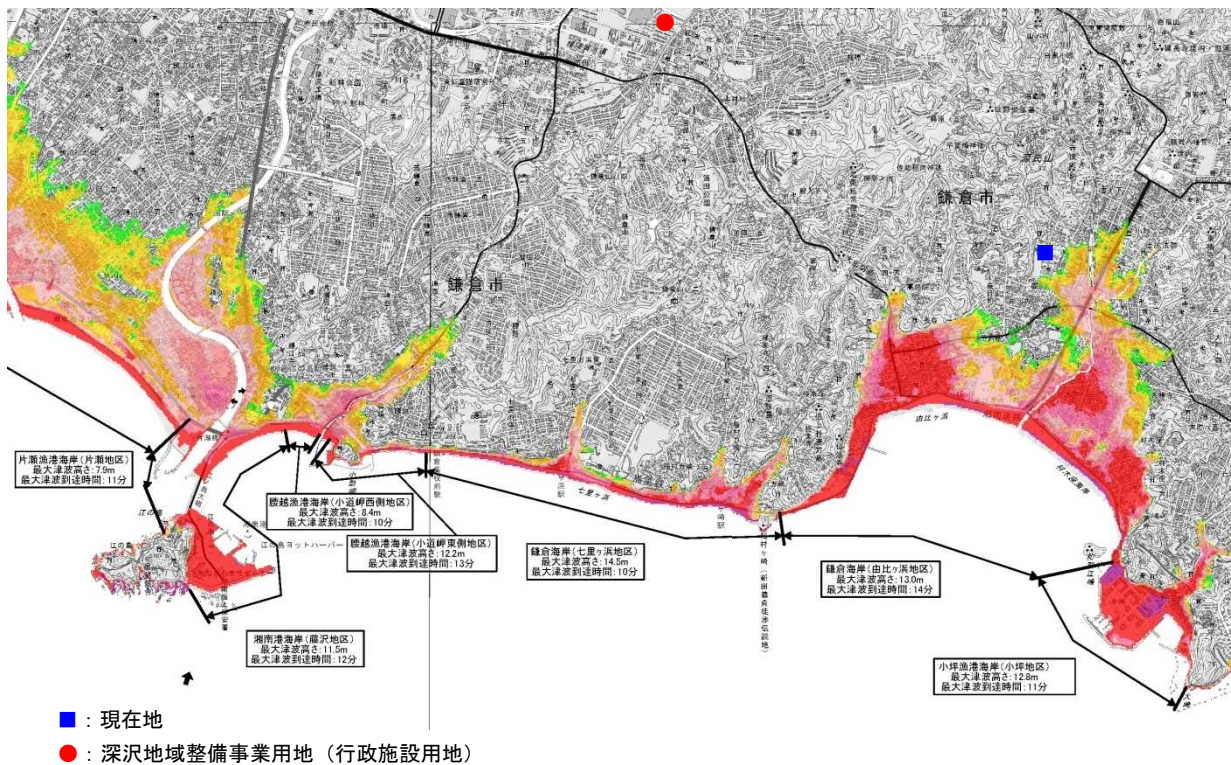


図 津波浸水予測図 相模トラフ沿いの海溝型地震 (西側モデル)

(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

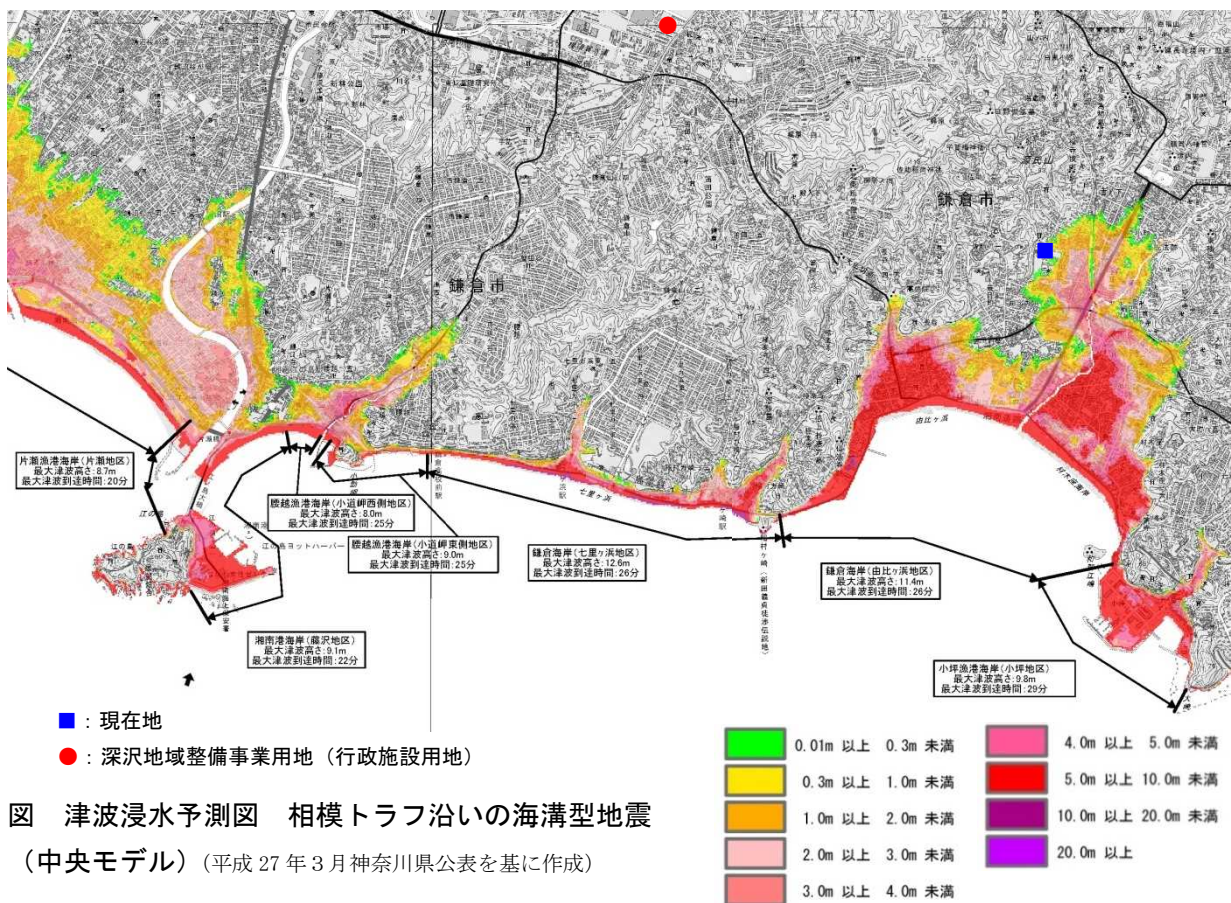


図 津波浸水予測図 相模トラフ沿いの海溝型地震

(中央モデル) (平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

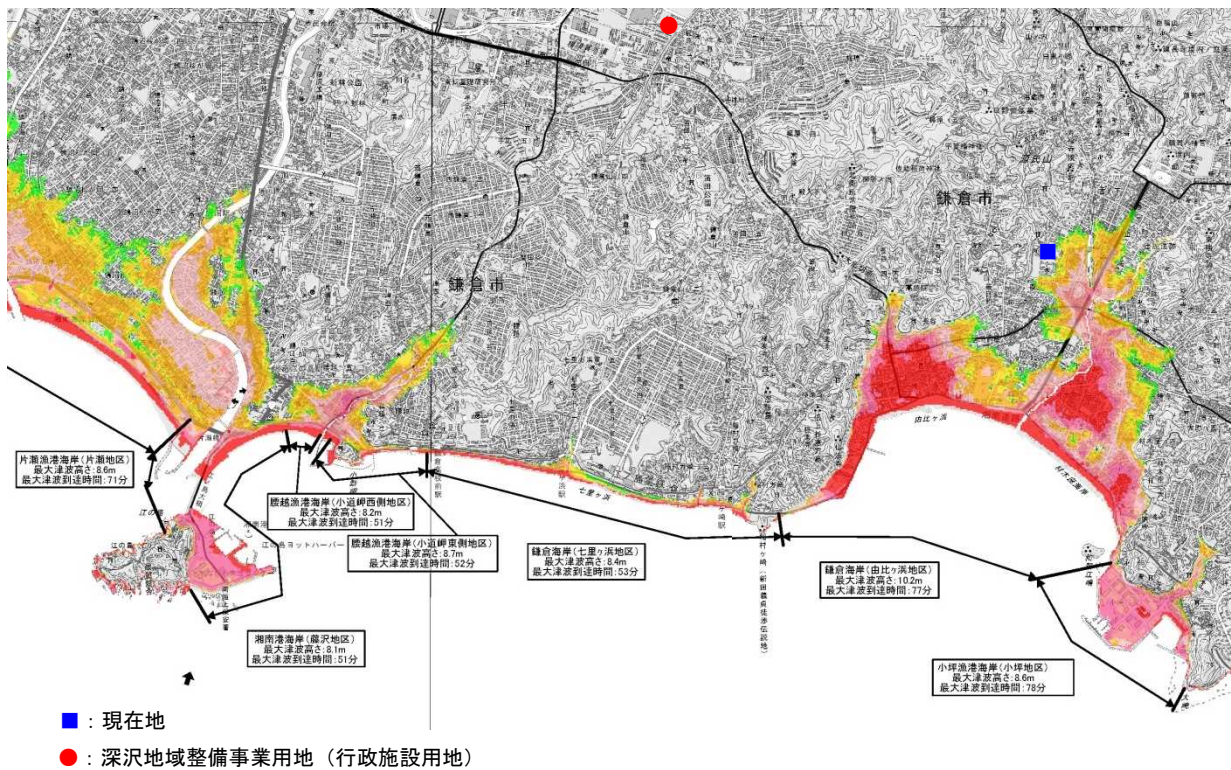


図 津波浸水予測図 慶長型地震

(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

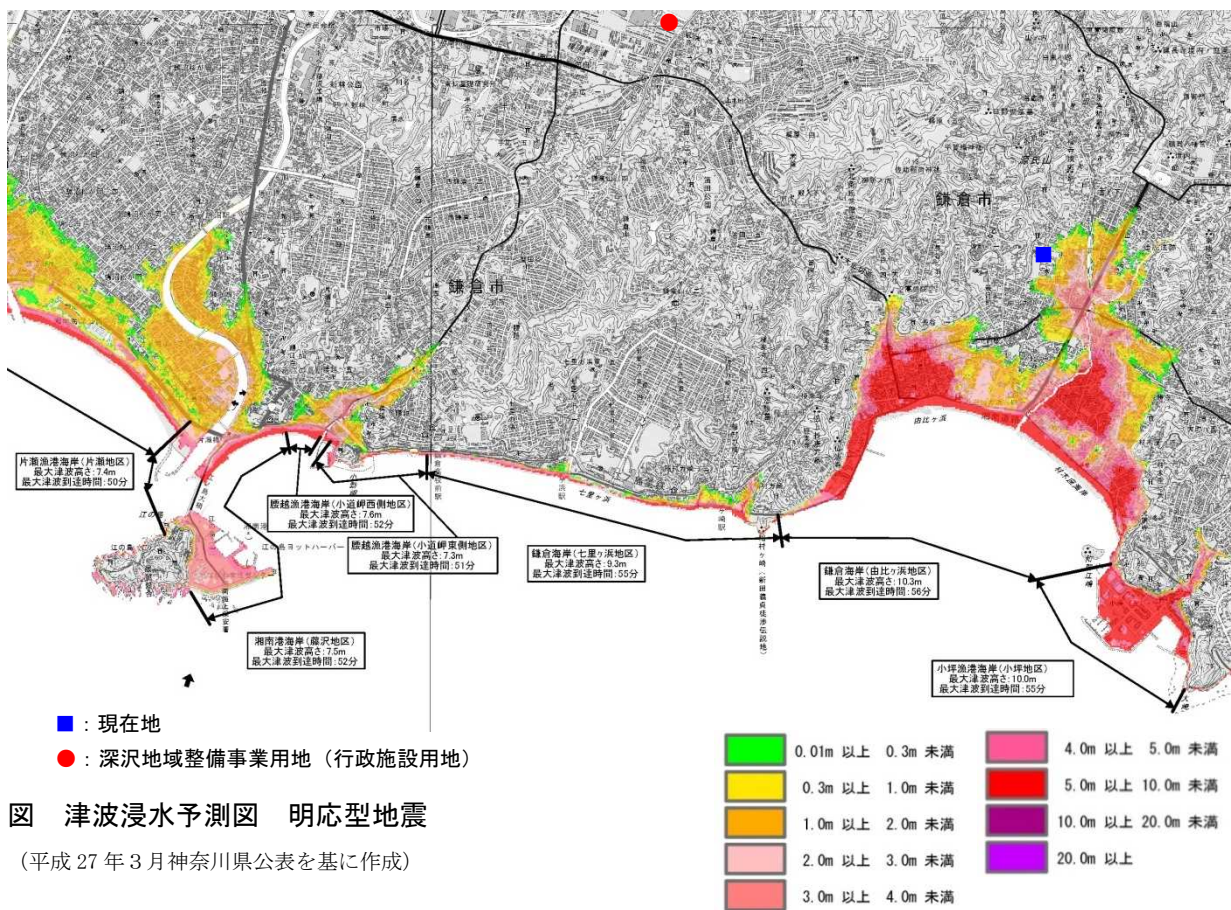


図 津波浸水予測図 明応型地震

(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

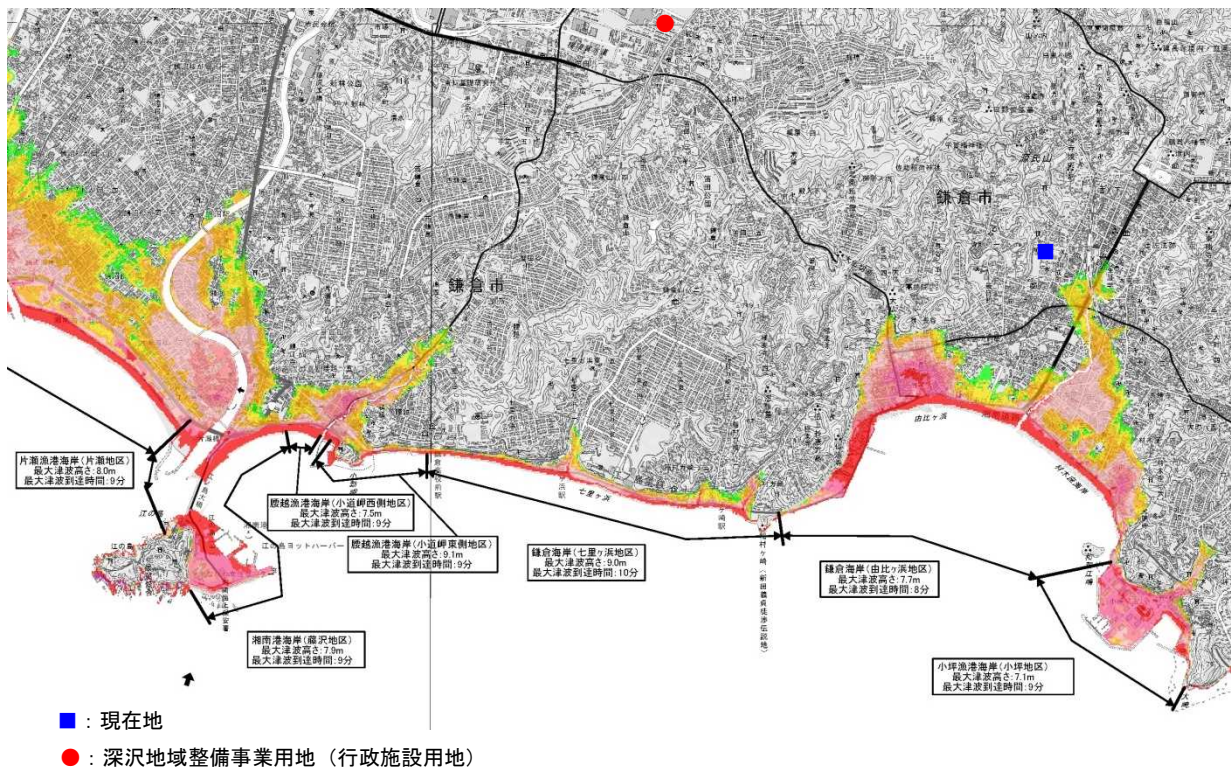


図 津波浸水予測図 元禄関東地震タイプと国府津-松田断層帯地震の連動地震

(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)

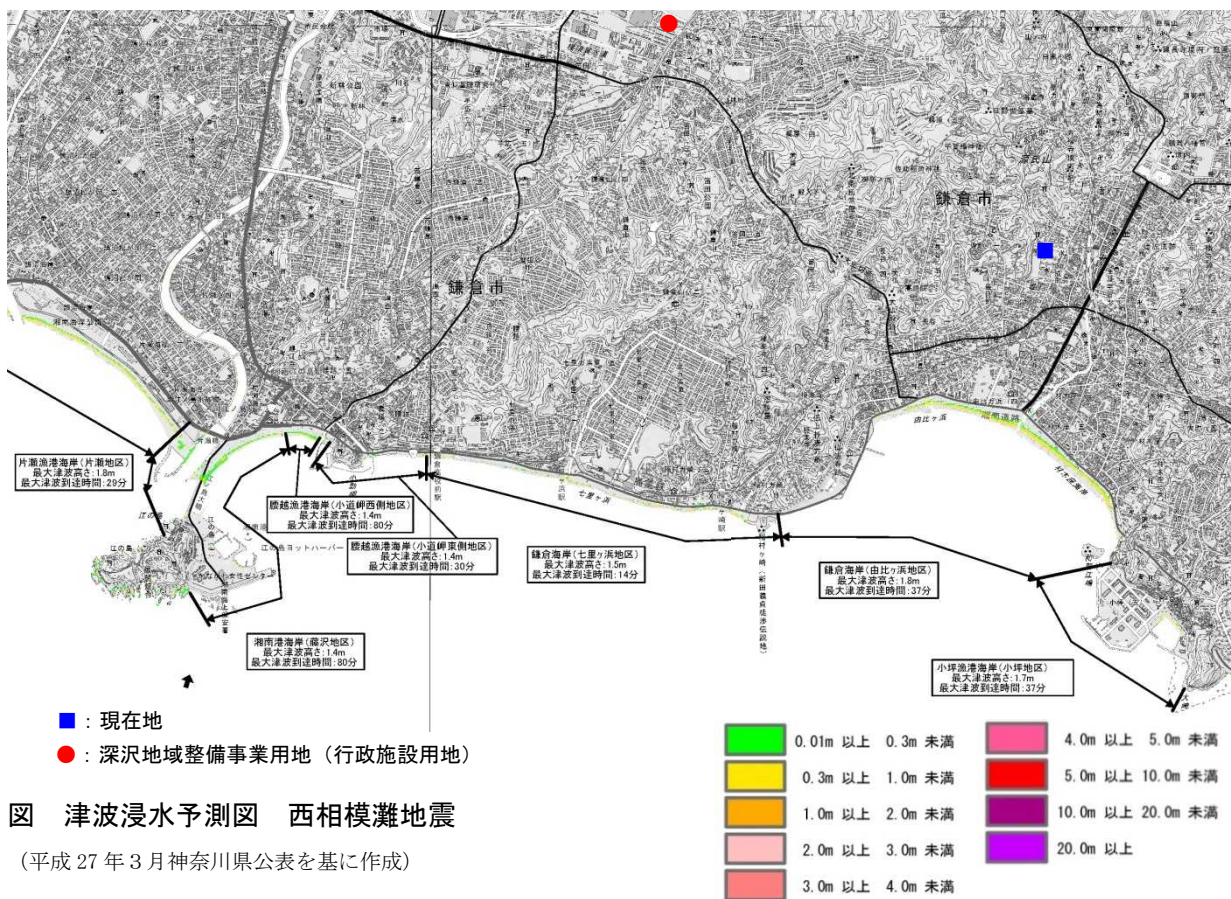


図 津波浸水予測図 西相模灘地震

(平成 27 年 3 月神奈川県公表を基に作成)



- : 現在地
- : 深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)

図 津波の浸水分布 南海トラフ巨大地震

(『ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定』における浸水図を基に作成)
 (平成 24 年 8 月南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ公表を基に作成)

※本市付近を拡大表示した画像のため、画像中の文字が大きく、画像がやや不鮮明になっています (以下同じ)。

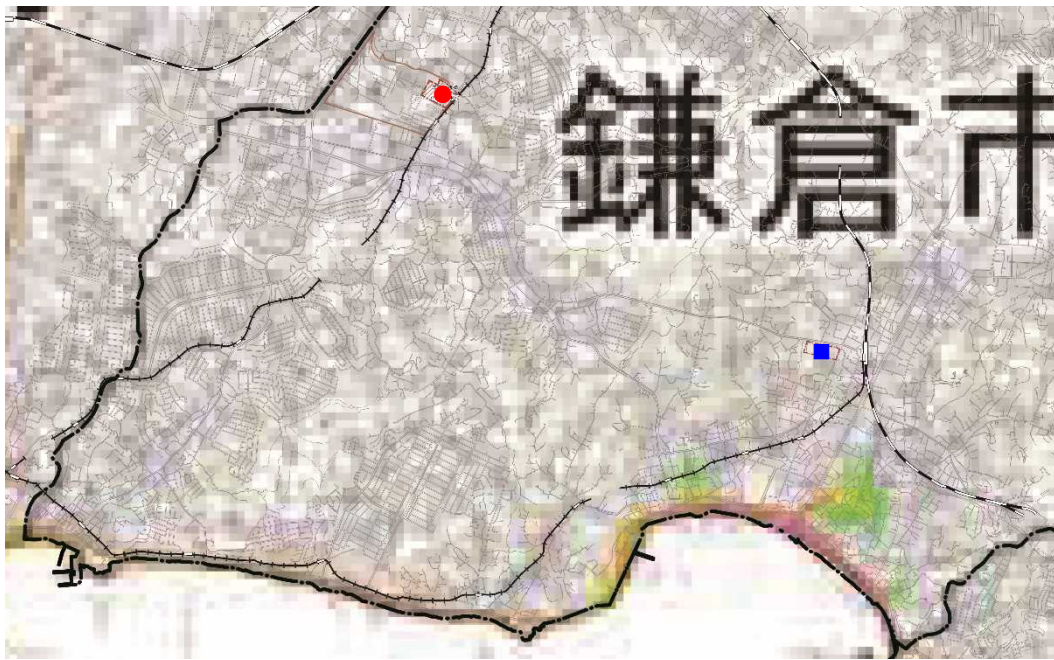


- : 現在地
- : 深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)

浸水深 (m)	
■	20.0 -
■	10.0 - 20.0
■	5.0 - 10.0
■	2.0 - 5.0
■	1.0 - 2.0
■	0.3 - 1.0
■	0.01 - 0.3

図 津波の浸水分布 南海トラフ巨大地震

(『ケース②「紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定』における浸水図を基に作成)
 (平成 24 年 8 月南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ公表を基に作成)



- : 現在地
- : 深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)

図 津波の浸水分布 南海トラフ巨大地震

(『ケース③「紀伊半島沖～四国沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定』における浸水図を基に作成)
 (平成 24 年 8 月南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ公表を基に作成)



浸水深 (m)	
20.0 -	10.0 - 20.0
5.0 - 10.0	2.0 - 5.0
1.0 - 2.0	0.3 - 1.0
0.01 - 0.3	

- : 現在地
- : 深沢地域整備事業用地 (行政施設用地)

図 津波の浸水分布 南海トラフ巨大地震

(『ケース④「四国沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定』における浸水図を基に作成)
 (平成 24 年 8 月南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ公表を基に作成)



図 津波の浸水分布 南海トラフ巨大地震

(『ケース⑤「四国沖～九州沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定』における浸水図を基に作成)

(平成 24 年 8 月南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ公表を基に作成)

2) 洪水による浸水の概要と被害予想

近年、大雨や短時間豪雨の発生頻度が増加し、地球温暖化による水害の激甚化が想定されることから、国土交通省では平成 27 年（2015 年）1 月に水害・土砂災害等に関連する今後の防災・減災対策の検討の方向性を「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」としてとりまとめました。当該あり方には、津波・地震対策と同様に、洪水等における最悪の事態の想定により、最大クラスの洪水等に対して「少なくとも命を守り、社会経済に壊滅的な被害が発生しない」ことを目標としてソフト対策に重点を置くこととし、「比較的発生頻度の高い降雨等」に対しては施設によって防御することを基本としていますが、それを超えるような降雨等に対しては施設では守りきれないことを認識して取り組むことが必要であることが述べられています。また、同年 2 月には「社会資本整備審議会河川分科会気候変動に適應した治水対策検討小委員会」より、「水災害分野における気候変動適應策のあり方について～災害リスク情報と危機感を共有し、減災に取り組む社会へ～ 中間とりまとめ」が公表され、激甚化する水災害に対処するために災害リスク情報を共有し、施策を総動員して減災対策に取り組むこととしています。これらを踏まえ、水防法が平成 27 年（2015 年）5 月に一部改正され、激甚な浸水被害への対応を図るため、河川整備において基本となる降雨を前提とした洪水に係る浸水想定区域を、想定し得る最大規模の降雨を前提とした区域に拡充するとともに、新たに想定し得る最大規模の降雨を前提とした内水等に係る浸水想定区域も公表していくこととしています。

神奈川県では平成 30 年（2018 年）1 月に想定し得る最大規模の降雨における境川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模・計画規模）を告示しており、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）においては、年超過率 1/100 の計画規模の降雨による浸水は想定されていませんが、年超過率 1/1,000 程度を上回る想定最大規模の降雨では敷地の大半が最大浸水深 0.5m～3.0m、浸水継続時間^{※8}は 12 時間未満と想定されています。また、家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される区域（境川水系洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流））に、岡本や手広が含まれていますが、深沢地域整備事業用地付近では想定されていません。

なお、滑川や神戸川^{ごうどがわ}の想定し得る最大規模の降雨の場合の浸水想定区域図については、神奈川県により見直しの検討中です。

※8 浸水継続時間：氾濫水到達後、屋外への避難が困難となり孤立する可能性がある浸水深 0.5m に達してから、その水深を下回るまでにかかる時間を示すものです（神奈川県ホームページ「河川の氾濫による洪水浸水想定区域図・洪水浸水想定区域図に関する Q&A」<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/cnt/f3747/p1039490.html>）。

- ：現在地
- ：深沢地域整備事業用地（行政施設用地）

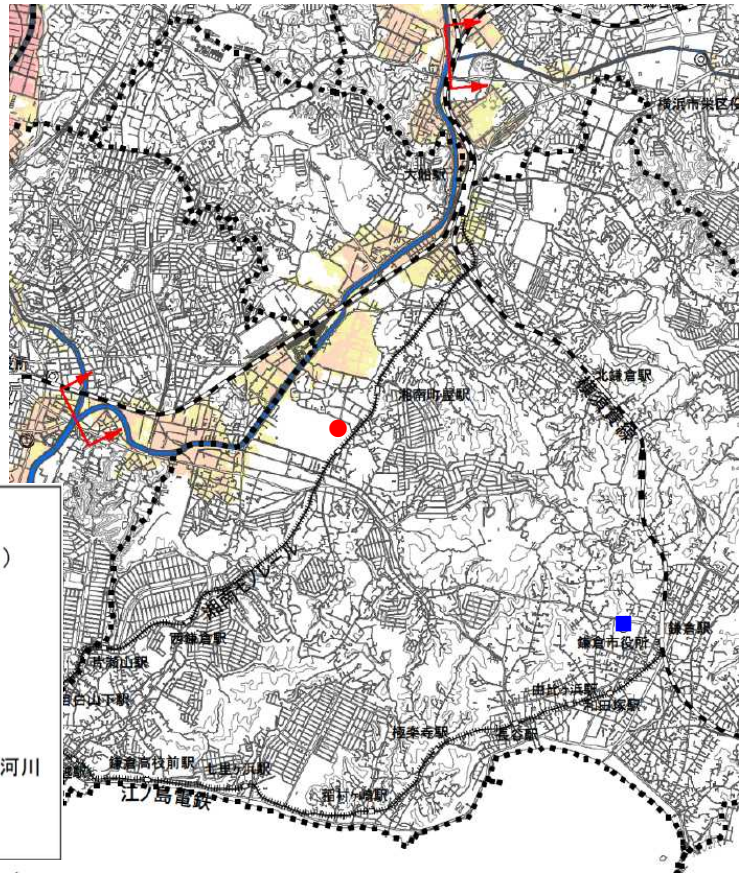
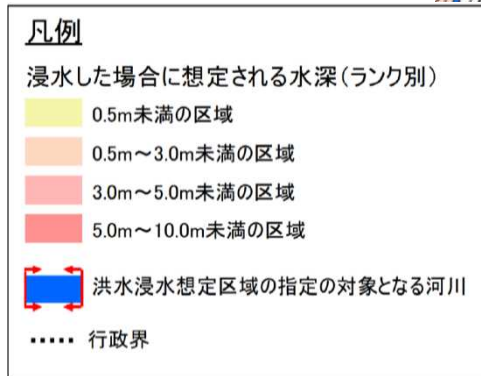


図 境川水系洪水浸水想定区域図（計画規模）（平成30年1月神奈川県告示を基に作成）

- ：現在地
- ：深沢地域整備事業用地（行政施設用地）

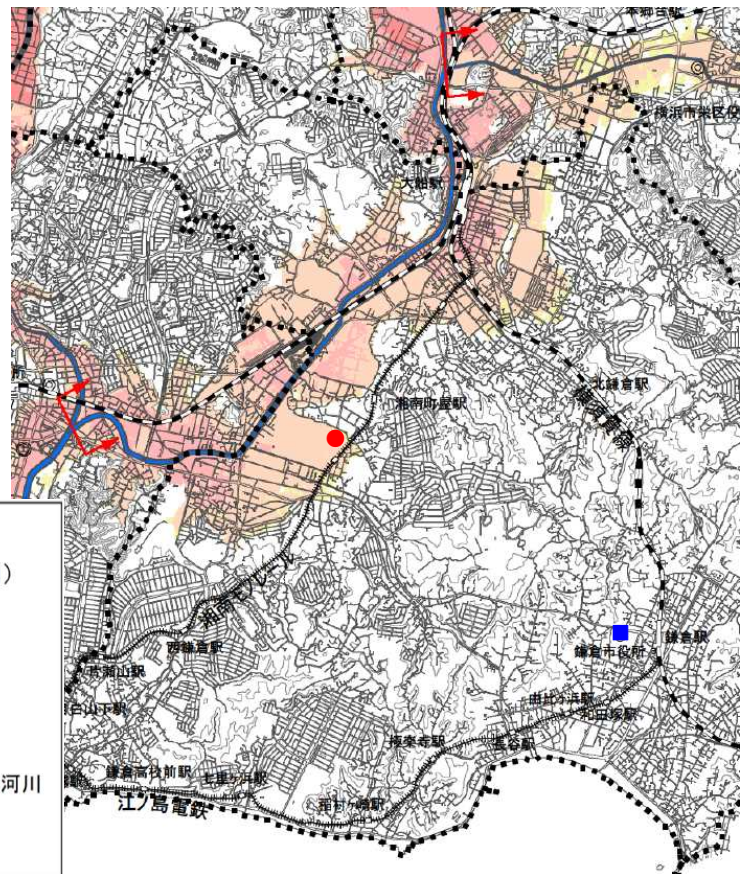
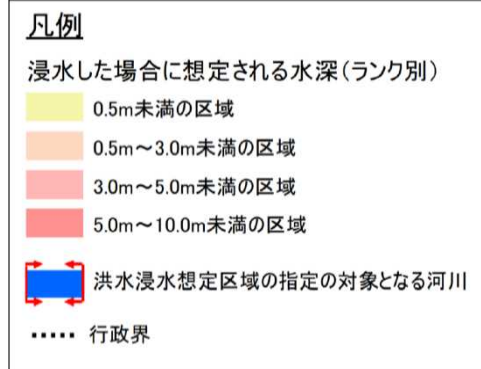


図 境川水系洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（平成30年1月 神奈川県告示を基に作成）

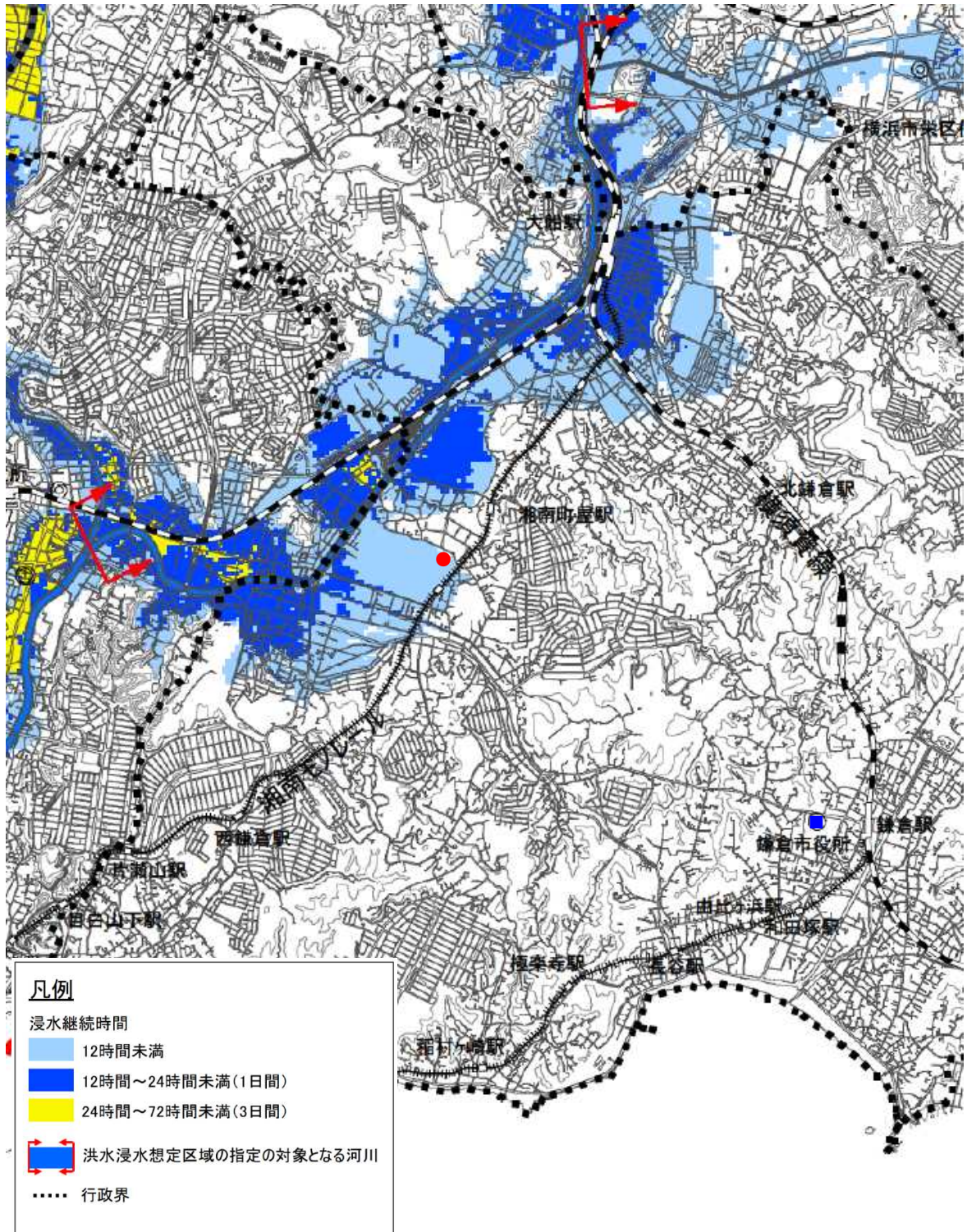


図 境川水系洪水浸水想定区域図 (浸水継続時間) (平成 30 年 1 月神奈川県告示を基に作成)

- ：現在地
- ：深沢地域整備事業用地（行政施設用地）

凡例

- 家屋倒壊危険ゾーン(氾濫流)
- 洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川
- 行政界

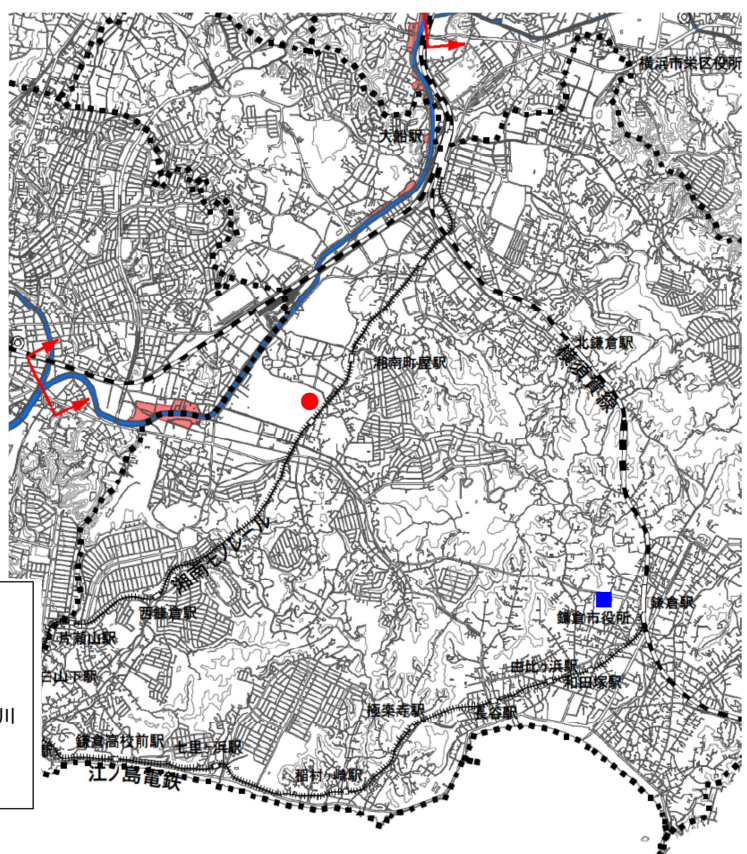


図 境川水系洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流））（平成 30 年 1 月神奈川県告示を基に作成）

- ：現在地
- ：深沢地域整備事業用地（行政施設用地）

凡例

- 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
- 洪水浸水想定区域の指定の対象となる河川
- 行政界

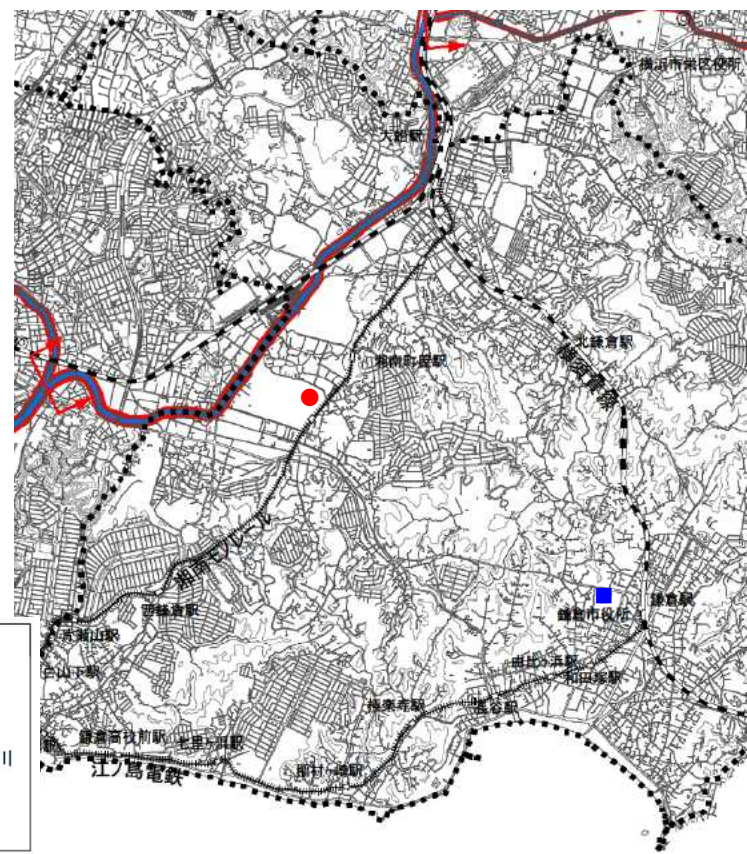


図 境川水系洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食））（平成 30 年 1 月神奈川県告示を基に作成）

②発災後の対応フロー

a. 地震・津波対策

地震災害の場合、本市の地域防災計画では応急対策の初動活動として、発災状況の情報収集や庁舎等の防護措置、災害対策本部の設置等を定めています。

平成27年(2015年)5月13日午前6時13分ごろに発生した宮城県沖を震源とする地震では、震度4以上を観測した太平洋沿岸の青森、岩手、宮城3県21市町村の中で、特別本部を立ち上げるまでに約30分かかった自治体もあったと報告されています^{※9}。

本市では、現在地至近に津波浸水が及ぶ想定地震については、津波の由比ヶ浜海岸への到達時間は最短で14分(相模トラフ沿いの海溝型地震(西側))、最長で77分(慶長型地震)と想定されています。そのため、災害対策本部の設置に先駆けて避難勧告・指示・誘導を発令しますが、特に勤務時間外では津波に対する庁舎等の防護措置が間に合わない可能性があります。また、地震発生直後は瓦礫や余震などの影響により、避難や初動活動に支障が出る可能性もあります。

このように、地震・津波の発災時は初動活動に掛ける時間的猶予があまりないことから、被災後の避難所の開設や復旧活動に円滑に移行するためには、本庁舎が津波による被害を受けることなく、初動活動後の職員配備や広域応援要請、自衛隊災害派遣要請等の早急な対応を可能とする機能を有することが重要となります。

東日本大震災では、自衛隊の大規模災害派遣開始までに約3時間を要したことから^{※10}、自衛隊災害派遣による救助開始までに数時間かかることが想定されます。

表 東日本大震災時の自衛隊の派遣までの初動対応^{※10}

14時50分	防衛省災害対策本部を設置
15時30分	第1回防衛省災害対策本部会議を開催
18時00分	大規模災害派遣の開始
19時30分	原子力災害派遣の開始

※9 産経新聞記事(平成27年5月) <https://www.sankei.com/region/news/150515/rgn1505150074-n1.html>

※10 東日本大震災-宮城県の6か月間の災害対応とその検証- (平成24年3月宮城県)

<https://www.pref.miyagi.jp/site/kt-kiroku/kt-kensyou.html>